

# 有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度	自	平成21年4月1日
(第99期)	至	平成22年3月31日

高周波熱錬株式会社

(E01400)

# 目次

頁

## 第99期 有価証券報告書

### 【表紙】

第一部 【企業情報】 .....	1
第1 【企業の概況】 .....	1
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	1
2 【沿革】 .....	3
3 【事業の内容】 .....	4
4 【関係会社の状況】 .....	6
5 【従業員の状況】 .....	8
第2 【事業の状況】 .....	9
1 【業績等の概要】 .....	9
2 【生産、受注及び販売の状況】 .....	12
3 【対処すべき課題】 .....	13
4 【事業等のリスク】 .....	14
5 【経営上の重要な契約等】 .....	15
6 【研究開発活動】 .....	16
7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	17
第3 【設備の状況】 .....	20
1 【設備投資等の概要】 .....	20
2 【主要な設備の状況】 .....	21
3 【設備の新設、除却等の計画】 .....	23
第4 【提出会社の状況】 .....	24
1 【株式等の状況】 .....	24
2 【自己株式の取得等の状況】 .....	28
3 【配当政策】 .....	29
4 【株価の推移】 .....	30
5 【役員の状況】 .....	31
6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】 .....	34
第5 【経理の状況】 .....	39
1 【連結財務諸表等】 .....	40
2 【財務諸表等】 .....	78
第6 【提出会社の株式事務の概要】 .....	107
第7 【提出会社の参考情報】 .....	108
1 【提出会社の親会社等の情報】 .....	108
2 【その他の参考情報】 .....	108
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	109

## 監査報告書

平成21年3月連結会計年度

平成22年3月連結会計年度

平成21年3月事業年度

平成22年3月事業年度

内部統制報告書 .....

119

確認書 .....

121

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成22年6月25日
【事業年度】	第99期（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）
【会社名】	高周波熱錬株式会社
【英訳名】	Neturen Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 福原 哲一
【本店の所在の場所】	東京都品川区東五反田二丁目17番1号
【電話番号】	03（3443）5441（代表）
【事務連絡者氏名】	専務取締役管理本部長 砂古 豊幸
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区東五反田二丁目17番1号
【電話番号】	03（3443）5441（代表）
【事務連絡者氏名】	専務取締役管理本部長 砂古 豊幸
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第95期	第96期	第97期	第98期	第99期
決算年月	平成18年3月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月
売上高(百万円)	35,086	39,151	43,530	40,846	30,423
経常利益(百万円)	4,449	5,631	6,264	3,887	644
当期純利益(百万円)	2,702	3,369	3,686	1,353	324
純資産額(百万円)	45,368	49,725	50,616	48,181	48,458
総資産額(百万円)	60,226	67,059	67,995	60,921	60,846
1株当たり純資産額(円)	1,024.06	1,090.18	1,099.37	1,047.23	1,070.89
1株当たり当期純利益金額(円)	61.73	75.87	82.89	30.85	7.47
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額(円)	59.45	75.50	82.86	—	—
自己資本比率(%)	75.3	72.4	71.4	74.9	75.7
自己資本利益率(%)	6.4	7.2	7.6	2.9	0.7
株価収益率(倍)	23.17	17.33	11.64	18.48	95.98
営業活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	3,333	3,898	5,863	6,071	4,601
投資活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	△3,179	△6,772	△5,964	△4,558	△3,076
財務活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	△258	△186	195	△422	△1,101
現金及び現金同等物の期末残高(百万円)	8,329	5,319	5,941	6,923	7,346
従業員数(人)	767	902	979	1,096	1,131
(外、平均臨時雇用者数)(人)	(—)	(—)	(185)	(168)	(174)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 平成19年3月期より「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準第5号 平成17年12月9日)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準適用指針第8号 平成17年12月9日)を適用しております。

3 平成19年3月期より百万円単位で表示しております。なお、比較を容易にするため、平成18年3月期についても百万円単位に組替え表示しております。

4 平成20年3月期より臨時従業員の総数が従業員数の100分の10以上になったため、臨時従業員の平均雇用人員を( )外数で記載しております。

5 平成21年3月期より潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第95期	第96期	第97期	第98期	第99期
決算年月	平成18年3月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月
売上高(百万円)	34,378	37,376	41,048	37,966	27,609
経常利益(百万円)	3,840	4,487	5,029	3,035	751
当期純利益(百万円)	2,300	3,144	3,292	389	356
資本金(百万円)	6,302	6,398	6,418	6,418	6,418
発行済株式総数(株)	44,337,465	44,648,458	44,713,930	44,713,930	44,713,930
純資産額(百万円)	40,527	43,271	43,027	40,899	41,134
総資産額(百万円)	54,410	59,316	59,060	52,850	52,448
1株当たり純資産額(円)	914.64	971.01	974.90	938.10	955.71
1株当たり配当額(うち1株当たり中間配当額)(円)	15.00 (5.00)	16.00 (7.50)	17.00 (8.00)	15.00 (10.00)	10.00 (5.00)
1株当たり当期純利益金額(円)	52.37	70.80	74.02	8.87	8.19
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額(円)	50.44	70.46	74.00	—	—
自己資本比率(%)	74.5	73.0	72.9	77.4	78.4
自己資本利益率(%)	6.1	7.5	7.6	0.9	0.9
株価収益率(倍)	27.31	18.57	13.04	64.26	87.55
配当性向(%)	28.6	22.6	23.0	169.1	122.1
従業員数(人)	579	632	639	702	723
(外、平均臨時雇用者数)(人)	(—)	(—)	(128)	(138)	(149)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 平成18年3月期の1株当たり配当額には、創業60周年記念配当2円を含んでおります。

3 平成19年3月期より「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」(企業会計基準第5号 平成17年12月9日)及び「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」(企業会計基準適用指針第8号 平成17年12月9日)を適用しております。

4 平成19年3月期より百万円単位で表示しております。なお、比較を容易にするため、平成18年3月期についても百万円単位に組替え表示しております。

5 平成20年3月期より臨時従業員の総数が従業員数の100分の10以上になったため、臨時従業員の平均雇用人員を( )外数で記載しております。

6 平成21年3月期より潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【沿革】

当社の前身は東亜無線電機株式会社で、昭和15年7月に資本金195千円で東京都世田谷区玉川上野毛町に設立され、無線送受信機、テレビジョン装置等の研究並びに製作販売を開始、その後昭和20年7月に日本高周波重工業株式会社の傘下に入りました。

日本高周波重工業株式会社は、財団法人応用科学研究所に依頼して開発した高周波表面焼入技術を企業化するため、東亜無線電機株式会社玉川工場において昭和20年11月より熱処理部門の業務を開始して、昭和21年5月同社の商号を高周波熱錬株式会社に変更しました。

当社及び重要な関係会社等の主な変遷は以下のとおりであります。

昭和21年5月	玉川工場において高周波誘導加熱装置の製作、各種機械部品の高周波表面焼入加工の受託業務を開始。
昭和23年12月	熱処理工場として東京工場、大阪工場を新設。
昭和27年11月	熱処理工場として名古屋工場を新設。
昭和30年4月	玉川工場を東京工場に集約合理化。
昭和30年9月	当社役員・従業員等が日本高周波鋼業株式会社（注）より当社株式を譲り受ける。
昭和37年4月	高周波焼入装置の製造工場として川崎工場を新設。
昭和37年11月	PC鋼棒の製造工場として平塚工場を新設。
昭和39年4月	株式を東京証券取引所市場第二部に上場公開。
昭和45年4月	神奈川県平塚市に研究所を新設。
昭和46年10月	PC鋼棒の製造工場として赤穂工場を新設。
昭和46年10月	熱処理工場として刈谷工場を新設。
昭和47年11月	株式を大阪証券取引所市場第二部に上場公開。
昭和49年12月	熱処理工場として寒川工場を新設。
昭和50年3月	東京証券取引所、大阪証券取引所市場第二部上場株式を第一部へ指定替。
昭和50年5月	決算期を年1回（3月31日）に変更し、中間配当制度を導入。
昭和58年6月	株式会社ネツレン甲府〔現・株式会社ネツレン・ヒートトリート（連結子会社）〕を設立。
平成3年10月	PC鋼棒の製造工場として、いわき工場を新設。
平成4年4月	川崎工場を平塚工場に集約合理化。
平成5年10月	赤穂工場に太物PC工場（第2工場）を新設。
平成13年2月	熱処理工場として刈谷工場の隣接地に第7工場を建設し、名古屋工場を集約合理化。
平成13年7月	本社を品川区東五反田「オーバルコート大崎マークウエスト」に移転。
平成14年4月	いわき工場に第2工場を新設し、平塚工場（製品事業部）を集約合理化。
平成15年4月	中空ラックバー製造工場として刈谷工場の隣接地に西境工場を新設。
平成15年4月	熱処理工場として岡山工場を新設。
平成15年7月	中国（上海市）に合弁会社上海中煉線材有限公司（連結子会社）を設立。
平成15年11月	大阪証券取引所市場第一部の上場を廃止。
平成17年8月	中国（江蘇省）に合弁会社塩城高周波熱煉有限公司（連結子会社）を設立。
平成18年10月	熱処理工場として岡山工場の隣接地に第2工場を新設。
平成19年1月	米国（オハイオ州）に合弁会社ネツレンアメリカコーポレーション（連結子会社）を設立。
平成19年12月	熱処理工場として尼崎工場を新設。
平成20年2月	中空ラックバー製造工場として可児工場を新設し、西境工場を集約合理化。
平成21年6月	建設機械部品等の製造工場として神戸工場を新設。

（注）日本高周波鋼業株式会社は、政令291号（昭和24年8月公布）にもとづき日本高周波重工業株式会社の本邦内財産を継承して設立された会社です。

### 3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社（高周波熱錬株式会社）、子会社13社及び関連会社6社により構成されており、土木・建築に使用されるPC鋼棒・異形PC鋼棒、主に自動車・二輪車用サスペンションばね等に使用される高強度ばね鋼線（ITW）及び各産業分野に向けた誘導加熱装置等の製造販売を行うほか、自動車・工作機械・建設機械等の重要保安部品の熱処理受託加工を主な事業内容としております。

また、オフィスビル等の賃貸事業及び各事業に関連する研究開発を展開しております。

当社グループの事業に係る位置付け及び事業の種類別セグメントとの関連は次のとおりであります。

なお、次の3部門は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等（1）連結財務諸表 注記事項」に掲げる事業の種類別セグメント情報の区分と同一であります。

#### （製品事業部関連事業）

PC鋼棒関連製品…… 当社が製造販売するほか、関連会社の高麗熱錬株式会社（韓国）においても製造販売しております。

ばね鋼線関連製品…… 当社が製造販売するほか、子会社の上海中煉線材有限公司（中国）、 Netzlenアメリカコーポレーション（米国）及び関連会社のユーエスチタCO., LTD.（米国）においても製造販売しております。

#### （加工・電機関連事業）

熱処理受託加工関連…… 当社が受託加工を行うほか、子会社の株式会社Netzlen・ヒートトリート、株式会社Netzlen・竜ヶ崎、九州高周波熱錬株式会社、株式会社Netzlen小松、広州豊東熱錬有限公司（中国）及び塩城高周波熱錬有限公司（中国）でも受託加工を行っております。

また、関連会社の株式会社Netzlen・ヒラカタでも受託加工を行っております。

なお、株式会社Netzlen・加古川については、当連結会計年度において株式を売却し、当社の議決権所有割合が15%未満となったため、関連会社ではなくなりました。

自動車部品関連…… 当社が中空ラックバー及びEPS用ウォームホイール等の自動車部品の製造販売を行うほか、子会社のNetzlen・ユー・エス・エーInc.（米国）の関連会社エヌティーケー精密アクスル株式会社（米国）でも、自動車部品の製造販売を行っております。

建設機械部品関連…… 当連結会計年度より、当社において、建設機械用旋回輪の製造販売を開始いたしました。

誘導加熱装置関連…… 当社が製造販売するほか、子会社の塩城高周波熱錬有限公司（中国）及び関連会社の韓国熱錬株式会社（韓国）におきましても製造販売を行っております。

子会社の株式会社Netzlenハイメックにおきましては、主として航空機・自動車等の油圧・空圧システムの試験装置を製造販売しており、同じく子会社の株式会社Netzlenタクトでは、主として産業用機械を製造販売しております。

また、子会社の株式会社旭電波工業所では、主として産業用機械部品の製造販売を行っております。

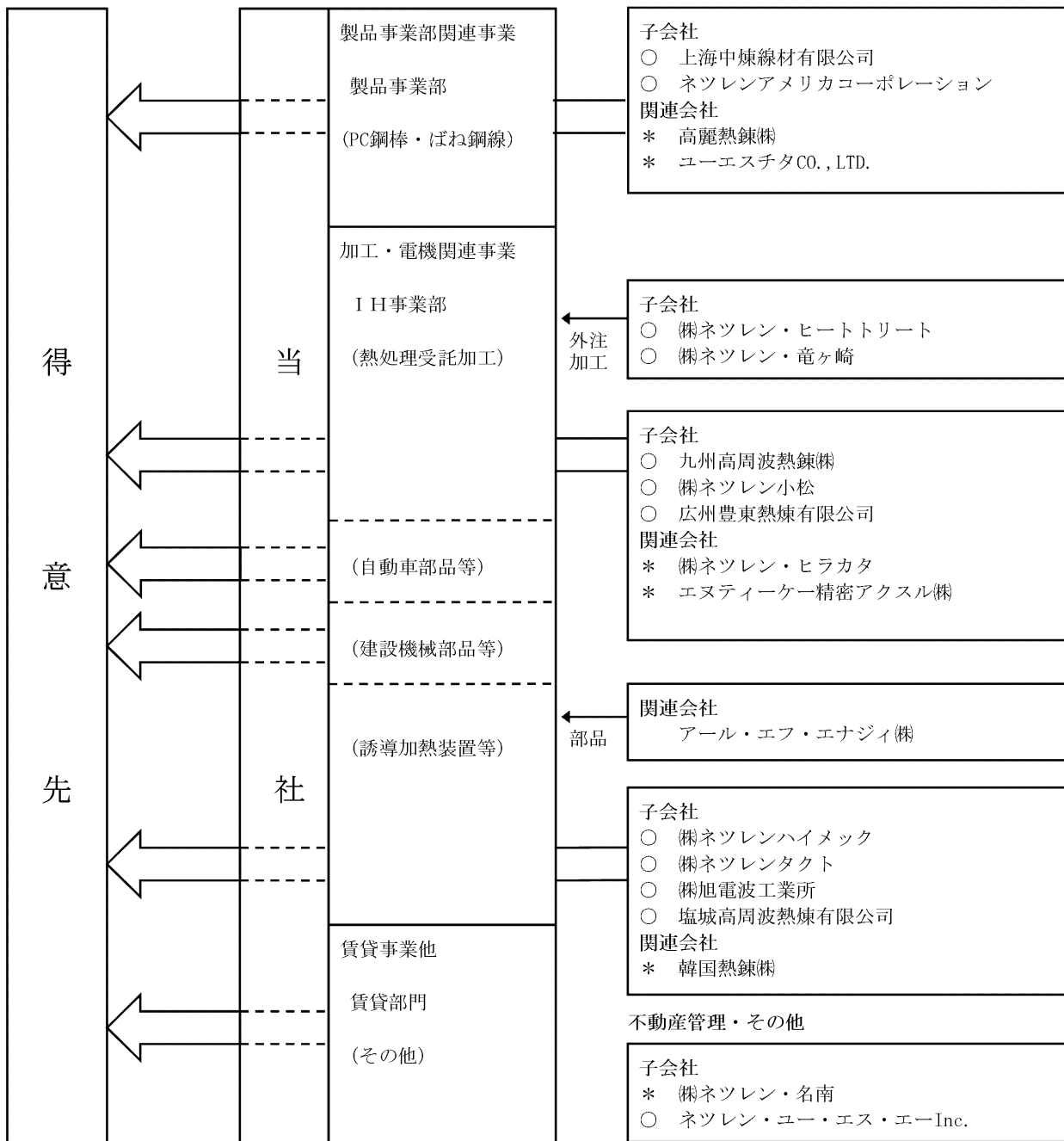
#### （賃貸事業他）

賃貸事業…… 当社が「オーバルコート大崎マークウエスト」に所有するフロア及び当社が行う事業に関連する設備等の賃貸事業であります。

その他…… 上記以外の事業であります。

事業の系統図は次のとおりであります。

○連結子会社  
\*持分法適用会社





#### 4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) ㈱ Netzlen・竜ヶ崎	茨城県稲敷市	40	加工・電機 関連事業	100	金属熱処理加工を行っております。 当社所有の設備を賃借しております。 役員の兼任あり
㈱ Netzlen・ ヒートトリート (注) 2	東京都品川区	80	加工・電機 関連事業	100	金属熱処理加工を行っております。 当社所有の設備を賃借しております。 役員の兼任あり
㈱ Netzlenハイメック	東京都品川区	80	加工・電機 関連事業	100	機械装置等の製造販売を行っております。 当社所有の土地及び建物を賃借しております。 役員の兼任あり
九州高周波熱錬㈱	福岡県北九州市若松区	36	加工・電機 関連事業	100	金属熱処理加工を行っております。 役員の兼任あり
㈱ Netzlenタクト	静岡県浜松市東区	83	加工・電機 関連事業	100	機械装置等の製造販売を行っております。 役員の兼任あり
㈱ Netzlen小松 (注) 4	石川県小松市	40	加工・電機 関連事業	40	金属熱処理加工を行っております。
㈱旭電波工業所	東京都東久留米市	80	加工・電機 関連事業	100	機械部品等の製造販売を行っております。
Netzlen・ ユー・エス・エーInc. (注) 2	米国 デラウェア州	百万US\$ 13	製品事業部 関連事業	100	米国における合弁会社の管理を行っております。 役員の兼任あり
Netzlenアメリカ コーポレーション (注) 2、5	米国 オハイオ州	百万US\$ 15	製品事業部 関連事業	56 (56)	米国において、高強度ばね鋼線の製造販売を行っております。 役員の兼任あり
上海中煉線材有限公司 (注) 2、4	中国上海市	百万中国元 120	製品事業部 関連事業	40	中国において、高強度ばね鋼線の製造販売を行っております。 役員の兼任あり

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
塩城高周波熱煉有限公司 (注) 4	中国江蘇省	百万中国元 12	加工・電機 関連事業	50	中国において、機械装置等 の製造販売及び金属熱処理 加工を行っております。 役員の兼任あり
広州豊東熱煉有限公司	中国広東省	百万中国元 25	加工・電機 関連事業	60	中国において、金属熱処理 加工を行っております。 役員の兼任あり
(持分法適用関連会社) ㈱ Netzlen・ヒラカタ	大阪府枚方市	20	加工・電機 関連事業	48	金属熱処理加工を行って おります。 役員の兼任あり
高麗熱錬㈱	大韓民国 慶北浦項市	百万W 1,500	製品事業部 関連事業	49	韓国において、異形P C鋼 棒の製造販売を行って おります。 役員の兼任あり
ユーエスタタCO., LTD. (注) 5	米国 ケンタッキー州	百万US\$ 2	製品事業部 関連事業	20 (20)	米国において、ばねの製造 販売を行っております。 役員の兼任あり
韓国熱錬㈱	大韓民国 慶北永川市	百万W 1,000	加工・電機 関連事業	44.8	韓国において、機械装置等 の製造販売を行って おります。 役員の兼任あり
エヌティーケー精密 アクスル㈱ (注) 5	米国 インディアナ州	百万US\$ 30	加工・電機 関連事業	20 (20)	米国において、自動車部品 等の製造販売を行って おります。 役員の兼任あり

(注) 1 主要な事業の内容欄には、事業の種類別セグメントの名称を記載しております。

2 特定子会社に該当しております。

3 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。

4 持分は100分の50以下ですが、実質的に支配しているため子会社としたものであります。

5 議決権の所有割合の( )内の数字は間接所有割合を内数で示しております。

## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成22年3月31日現在

事業の種類別セグメントの名称	従業員数（人）
製品事業部関連事業	355 (23)
加工・電機関連事業	738 (144)
全社（共通）	38 (7)
合計	1,131 (174)

(注) 1 従業員数は就業人員（当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む）であります。なお、当連結会計年度における臨時従業員の平均雇用人員を（ ）外数で記載しております。

2 全社（共通）として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

### (2) 提出会社の状況

平成22年3月31日現在

従業員数（人）	平均年齢（歳）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（千円）
723 (149)	37.4	15.2	5,080

(注) 1 従業員は就業人員であります。なお、当事業年度における臨時従業員の平均雇用人員を（ ）外数で記載しております。

2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

### (3) 労働組合の状況

当社グループの労働組合は、当社及び九州高周波熱錬㈱にそれぞれ組織されております。

なお、労使関係について特に記載すべき事項はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1)業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、前連結会計年度後半からの急激な景気減速の状態から、中国を中心とする外需の回復、景気対策効果などにより緩やかながら回復基調で推移しました。しかし、雇用環境や消費については大きな改善は見えず、また回復状況は業種によって大きなばらつきが見られ、いまだ予断を許さない状況であります。

関連業界の状況につきましては、次のとおりであります。

土木業界における公共事業は、ここ数年、低水準で推移しておりましたが、公共投資が一段と絞り込まれたこともあり、需要がさらに縮小してきております。建築業界においても、経済政策の効果が一部に見られたものの、マンション、オフィスビルとも需要回復のスピードは遅く、依然厳しい状況が続いております。

また、自動車業界においては、在庫調整の進展や環境対応車種の好調な販売などにより、比較的順調な回復が見られましたが、建設機械・工作機械業界においては、需要の回復は、なお時間を要するものと見られます。

このような状況のもと、当社グループは、新商品・新技術の開発及び拡販、国内外の生産拠点の充実を図り、緊急経営改善策としてコスト低減及び業務効率化に一丸となって取り組むとともに、第11次中期経営計画「革新への挑戦と飛躍・65」（3カ年計画）を策定し、その実行に着手しております。しかしながら、一部顧客からの受注は徐々に回復してきているものの、前連結会計年度と比較すると売上高は大幅な減少となりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は30,423百万円（前年同期比25.5%減）、営業利益は236百万円（前年同期比93.2%減）、経常利益は644百万円（前年同期比83.4%減）、当期純利益は324百万円（前年同期比76.0%減）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

#### （製品事業部関連事業）

土木・建築業界の不振を受け、当社主力製品であるコンクリートパイル用ウルボン、中高層マンション向け及び場所打ち杭用高強度せん断補強筋の販売量は、前年同期と比較し減少いたしました。また、自動車・二輪車用サスペンションばね等に使用される高強度ばね鋼線（ITW）の販売量は、主として自動車業界からの受注が比較的早く回復したこともあって、増加いたしました。

この結果、売上高は16,663百万円（前年同期比20.9%減）、営業利益は797百万円（前年同期比56.2%減）となりました。

#### （加工・電機関連事業）

熱処理受託加工関連事業及び自動車部品関連事業につきましては、下半期には、主として自動車業界中心に受注が増加してきているものの、未だ本格的な回復には至っておりません。なお、当連結会計年度から当社神戸工場において開始した建設機械部品関連事業については、比較的堅調に推移しました。

誘導加熱装置関連事業につきましては、海外を含め顧客の積極的な開拓に注力しました。下半期には、一部において受注の回復が見られたものの、なお、顧客の設備投資抑制の動きが影響しており、売上高は大幅に減少いたしました。

この結果、売上高は13,265百万円（前年同期比31.1%減）、設備投資に伴う減価償却費などの固定費の負担が相対的に重くなったことなどにより、営業損失は931百万円（前年同期は1,368百万円の利益）となりました。

#### （賃貸事業他）

当社所有の賃貸物件については、引き続き安定的に業績に寄与しました。

この結果、売上高は493百万円（前年同期比6.7%減）、営業利益は370百万円（前年同期比15.7%増）となりました。

なお、平成22年3月において、当社が「オーバルコート大崎マークウエスト」に所有する賃貸用オフィス4.5フロアのうち、2フロアを売却しております。

所在地別セグメントの業績は次のとおりであります。

(日本)

国内においては、前連結会計年度後半からの経済状況悪化の影響を引き続き受け、当社グループが展開するほとんどの事業において受注が減少しました。当連結会計年度の後半から徐々に回復してきたとはいえ、上半期の落ち込みをカバーするには至りませんでした。このため、コスト低減に努めましたが、減価償却費などの固定費の負担が相対的に重くなったことなどもあり、利益面においても厳しい状況となりました。

この結果、売上高は27,611百万円（前年同期比28.7%減）、営業利益は347百万円（前年同期比89.7%減）となりました。

(アジア)

アジア（中国）においては、高強度ばね鋼線（ITW）の製造販売、誘導加熱装置等の製造販売及び機械部品等の熱処理加工を行っております。このうち、高強度ばね鋼線においては、急速に受注が回復してまいりました。また、誘導加熱装置等の製造販売も比較的堅調に推移したため、当社グループが中国で展開する事業の業績の落ち込みを比較的軽微に留めることができました。

この結果、売上高は2,495百万円（前年同期比24.8%増）、営業利益は127百万円（前年同期比61.2%減）となりました。

(北米)

北米（米国）においては、主として高強度ばね鋼線（ITW）の製造販売を行っております。この事業は操業2年目を迎えておりますが、米国の自動車業界の不振に加え、現行の受注量では、販売価格に比べ製造コストが割高に推移しており、販売量は前連結会計年度より増加したものの、利益面では依然として厳しい状況となりました。

この結果、売上高は316百万円（前年同期比219.5%増）、損益においては238百万円の営業損失（前年同期は209百万円の損失）となりました。

## (2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、7,346百万円（前連結会計年度末と比べて423百万円の増加）となっておりますが、その内訳は以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、4,601百万円（前年同期は6,071百万円の収入）であります。これは、税金等調整前当期純利益を1,053百万円確保し、減価償却費の計上が3,044百万円あったことに加え、法人税等が還付となったことなどによります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果支出した資金は、3,076百万円（前年同期は4,558百万円の支出）であります。これは、投資有価証券の売却による収入が308百万円、移転補償金の受取額が269百万円あったものの、有形固定資産の取得による支出が2,688百万円あったことなどによります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果支出した資金は、1,101百万円（前年同期は422百万円の支出）であります。これは、長期借入れによる収入が少額であったことに加え、長期借入金の返済による支出が626百万円、自己株式の取得による支出が352百万円あったことなどによります。

なお、当社グループ(当社)では、当社の主力取引銀行との間でコミットメントライン契約を締結しておりましたが、当該契約については、当連結会計年度において全て終了しております。

キャッシュ・フロー指標

項目	前連結会計年度	当連結会計年度
① 自己資本比率	74.9	75.7
② 時価ベース自己資本比率	40.8	50.7
③ キャッシュ・フロー対有利子負債比率	0.7	0.8
④ インタレスト・カバレッジ・レシオ	68.5	45.4

(注) 1 各指標の算出方法

- ①自己資本比率 : 自己資本／総資産
- ②時価ベース自己資本比率 : 株式時価総額(株価終値×発行済株式総数)／総資産
- ③キャッシュ・フロー対有利子負債比率 : 有利子負債／営業キャッシュ・フロー
- ④インタレスト・カバレッジ・レシオ : 営業キャッシュ・フロー／利払い金額

- 2 株式時価総額は、自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しています。営業キャッシュ・フローは、キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。有利子負債は、貸借対照表に計上されている借入金を対象としております。また、利払い金額については、損益計算書に計上されている支払利息の金額を使用しております。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	金額（百万円）	前期比（％）
製品事業部関連事業	13,386	77.8
加工・電機関連事業	11,173	77.2
合計	24,559	77.5

- (注) 1 金額は、製造費によっており、セグメント間の取引については消去しております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (2) 受注状況

当連結会計年度における受注状況を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	受注高 (百万円)	前期比 (％)	受注残高 (百万円)	前期比 (％)
製品事業部関連事業	16,766	81.0	1,341	108.3
加工・電機関連事業 (誘導加熱装置関連)	2,846	57.7	1,535	78.1

- (注) 1 加工・電機関連事業のうち、熱処理受託加工関連は継続的な取引が多く、加工賃収入のため受注高及び受注残高の把握が困難のため、誘導加熱装置関連の受注状況を記載しております。  
2 受注金額は販売価格によっており、セグメント間の取引については消去しております。  
3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	金額（百万円）	前期比（％）
製品事業部関連事業	16,663	79.1
加工・電機関連事業	13,265	68.9
賃貸事業他	493	93.3
合計	30,423	74.5

- (注) 1 上記の金額は、セグメント間の内部売上高を消去しております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### 3【対処すべき課題】

前連結会計年度後半からの経済環境の激変を受け、当社グループにおいても受注が大幅に減少しました。このため、グループ一丸となって、コスト低減努力を継続し、このような経営環境においても利益を確保できるよう、体質改善に努めてまいりました。

また、この方針をさらに推進していくため、2009年度から創業65周年を迎える2011年度までの3年間を実行期間とする第11次中期経営計画「革新への挑戦と飛躍・65」を策定し、収益力の強化に取り組みます。

今後は、コスト低減努力の継続はもとより、事業の選択と集中、事業拠点の再編成、新商品の市場投入の早期化、人材育成なども視野に入れ、中期経営計画の方策を確実に実行することにより、経営目標の達成を図ってまいります。

会社の支配に関する基本方針について

#### ①当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当社グループは、熱処理技術の中核とし、常に新商品・新事業の開発を進めることにより、社会の発展に貢献することを企業理念に掲げております。この理念に沿って、株主の皆様から経営についての負託を受けた当社取締役会は、当社の財務及び事業の方針を決定するにあたり、中長期的な視点から経営戦略を立案・実行し、当社グループの競争力・収益力を向上させることにより、企業価値、ひいては、株主共同の利益の向上を目指すことが株主の皆様に対する責務であると考え、これを実行してまいりました。

他方、当社の財務及び事業の方針の決定に関する支配権の交代を意図する者（以下「買収提案者」といいます。）が現われた場合には、そのような者を受け入れるか否かの最終判断は、株主の皆様委ねられるべきものと考えております。しかしながら、株主の皆様が、買収提案者の提案が当社の企業価値を最大限に反映しているものか否かを適切に判断することは必ずしも容易ではありません。特に、当社株式の急激な大量買付け行為が行われ、株主の皆様には十分な情報も時間も与えられない状況下で判断を迫られるような場合には、適切な判断を行うことは極めて困難であることが予想されます。したがって、当社取締役会は、買収提案者の提案について、その提案がなされた時点における株主の皆様が十分な情報を相当な検討期間に基づいた適切な判断（インフォームド・ジャッジメント）を行えるよう、合理的なルールを予め策定し、これによって、株主の皆様が当社の企業価値の最大化された利益を享受できるようにすることが、当社取締役会の責務であると考えております。もとより、このようなルールは、取締役が自己の地位の維持を図るなど、取締役会による恣意的判断の入る余地のない公正で透明性の高いものでなければなりません。

#### ②基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取り組み

当社は、平成19年11月15日開催の取締役会において、買収を行おうとする者が具体的買付け行為を行う前に経るべき手続きを明確かつ具体的に示した「株式の大量買付けに関する適正ルール（「株主意思確認型」買収防衛策）」（以下「適正ルール」といいます。）の導入を決議いたしました。

適正ルールは、当社取締役会が代替案を含め買収提案を検討するため、必要な情報と相当な期間を確保することにより、株主の皆様が買収提案に関し、インフォームド・ジャッジメント（必要な情報と相当な検討期間に基づいた適切な判断）を行えるようにすることを目的としており、当社の株券等を15%以上取得しようとする者（買収提案者）がいる場合、買収提案者の買収提案が適正ルールに定める要件（必要情報及び検討期間）を満たすときは、その時点における株主の皆様が、対抗措置である新株予約権の発行（無償割当てを含む。以下同じ）の可否に関し、直接判断を下す仕組みを定めております。

適正ルールに基づく新株予約権の発行は、①買収提案者が適正ルールに定める手続きを無視した場合、②株主の皆様が新株予約権の発行に賛同した場合に限られます。

当社は、当該適正ルールを平成19年11月15日付「当社株式の大量買付けに関する適正ルール（「株主意思確認型」買収防衛策）の導入及び新株予約権の発行登録に関するお知らせ」として公表しております。

#### ③上記取り組みについての取締役会の判断

適正ルールは、買収提案がなされた場合に対抗措置（新株予約権の発行）を発動するか否かを株主の皆様に必要な情報と相当な検討期間に基づき判断していただくためのルール及び手続きを定めたものです。

適正ルールは、買収提案を受け入れるか否かの最終的な判断を当社株主の皆様委ねることにより、当社の企業価値及び株主共同の利益の確保・向上を図るものであり、当社の株主の共同の利益を損なうものではなく、また、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではありません。



以上から、当社取締役会は、適正ルールが上記「当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針」に沿うものであると判断しております。

#### 4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には以下のものがあります。なお、将来に関する記載事項につきましては、有価証券報告書提出日現在の判断によるものであります。

##### (1) 重要顧客からの受注減少に関するリスク

当社グループは、ここ数年、主として、自動車・建設機械・工作機械業界からの受注に対応するため、生産拠点の拡充などの設備投資等を積極的に推進してまいりました。

しかしながら、重要顧客からの受注が予想以上に減少した場合、減価償却費など固定費の負担が相対的に重くなり、当社グループの業績に大きな影響を与える可能性があるとともに、減損損失発生の要因ともなります。

##### (2) 製品品質に関するリスク

当社グループは、主として土木・建築業界や、自動車業界等に幅広く製品を提供しております。これらの製品は、非常に重要な部位に使用されるため、供給者としての責任を自覚し、品質検査及び性能確認には十分注意を払っております。

しかしながら、万一、品質上のトラブルが発生し、人的、社会的な被害が生じた場合は、当社グループの信用及び業績に影響を与える可能性があります。

##### (3) 調達資材等の価格変動に関するリスク

鋼材を中心とする原材料価格につきましては、再び上昇傾向にあり、その動向が不安定な状況にあります。当社グループの事業のうち、特に製品事業部関連事業の主要な材料は鋼材であり、製造コストを構成する重要な要素であるため、鋼材価格動向の把握に努めております。

しかしながら、想定以上に価格が変動した場合、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

## 5 【経営上の重要な契約等】

### 技術援助契約（供与）

契約会社名	相手方の名称	国名	契約品目	契約内容	契約期間
高周波熱錬株式会社	賀順企業股份有限公司	中華民国（台湾）	MK22型静止型高周波インバータの製造技術及び販売	1 技術情報、ノウハウ及び技術指導 2 中華民国（台湾）における独占的且つ非譲渡的製造販売権 3 中華民国（台湾）を除く各国における非独占的且つ非譲渡的販売権 (注) 1、3	平成11年9月17日から 平成21年9月16日まで
高周波熱錬株式会社	上海中煉線材有限公司	中国	I T Wの製造技術及び販売	1 技術情報、ノウハウ及び技術指導 2 中国における独占的製造販売権 3 中国を除く各国における非独占的且つ非譲渡的販売権 (注) 1	平成15年11月20日から 平成22年11月19日まで
高周波熱錬株式会社	塩城高周波熱錬有限公司	中国	誘導加熱装置の製造・販売及び熱処理受託加工	1 技術情報、ノウハウ及び技術指導 2 中国における独占的且つ非譲渡的製造販売権 (注) 1	平成17年8月5日から 平成47年8月4日まで
高周波熱錬株式会社	ネツレンアメリカコーポレーション	米国	I T Wの製造技術及び販売	1 技術情報、ノウハウ及び技術指導 2 米国における独占的且つ非譲渡的製造販売権 (注) 2	平成19年7月2日から 平成29年7月1日まで

(注) 1 対価として売上高の一定料率のロイヤルティを受け取っております。

2 対価として販売量の一定料率のロイヤルティを受け取っております。

3 契約期間満了により、契約を終了しております。

## 6 【研究開発活動】

当社グループ(当社及び連結子会社)は、ニーズに沿った商品や技術をスピーディーに市場に提供できるよう、また、次世代ニーズを先取りできるよう、日夜研究開発に取り組んでおります。当社グループの研究開発活動については、テーマやその内容、予算額、進捗状況等を技術本部にて統括しており、グループ全体として、経営資源の効率的な投入等の経営判断が可能な体制をとっており、知的財産の確保にも注力しております。また、「新商品開発プロジェクト」が、 Netzlenの固有技術を元にして情報収集を行い、製品や技術の用途拡大や新テーマ探索を実施しています。

当連結会計年度における研究開発費は、663百万円となりますが、この内訳は製品事業部関連事業17百万円、加工・電機関連事業162百万円、当社グループ全体に係わる研究開発案件等が483百万円となっております。

### 主な研究開発の成果

#### (製品事業部関連事業)

当分野におきましては、高強度、高延性、高靱性、優れた応力緩和特性、優れた疲労特性等を有する高周波誘導加熱の線材熱処理技術を生かして、P C鋼棒、高強度せん断補強筋、高強度ばね鋼線 ( I T W )、特殊鋼鋼線等の性能向上や用途拡大のための研究開発を行っております。

具体的には、以下の成果があります。

#### ①建築用高強度せん断補強筋 1275 (損傷制御設計法を導入した高強度せん断補強筋)

一昨年に一般評定を取得しましたウルボン1275は、高層建築における優位性が構造設計者の間で認められ、採用件数が増加しております。今後とも営業活動を強化し、市場拡大を図ってまいります。

#### ②土木用高強度せん断補強筋 1275

昨年7月に社団法人土木学会にて「靱性の向上を目的とした高強度鉄筋による柱および杭の設計施工法」について技術評価証を取得しました。本設計法を採用することで柱・杭部材の性能を変えることなく、せん断補強鉄筋量を大幅に低減することが可能となり、施工の改善、コストの低減に寄与します。

#### ③ I H技術を応用した耐遅れ破壊性に優れた高強度P C鋼棒の開発

本P C鋼棒は、I H焼戻しの際に超高周波で短時間加熱します。これにより、鋼棒断面の表層部温度は中央部より1.5倍程度高くなり、急速冷却することで表層は1000MPa程度まで軟化します。その結果、従来よりはるかに耐遅れ破壊性に優れた画期的な鋼棒となります。

#### ④扁平断面の高強度鋼材の用途開発

お客様の要望を受け、お客様と連携してチェーンの弛みを防ぐチェーンテンショナー部品へのプレハードン材加工技術の確立に取り組み、製品化の目途がつかしました。今後は、お客様の協力のもと、順次、本製品への切替を実施します。

#### (加工・電機関連事業)

当分野におきましては、あらゆる産業分野において、様々な形状、成分の部品類の熱処理に対応できるよう、研究開発を進めております。

大型特殊部品に対応した「2流体噴霧焼入れ技術」、「大型旋回輪の一発焼入れ技術」の開発をはじめ、熱間圧延鋼板用「切断面遅れ破壊防止加熱技術」、浸炭と誘導加熱を合わせた「複合焼入れ技術」、低変形を目指した「クロスローラ焼入れ技術」の開発にも取り組んでおります。

また、「次世代焼入装置」の開発により、お客様のより高い満足度を得るべく、高品質で大幅なコスト低減を図った装置販売を目指してまいります。

さらに、「EPS (電動パワステ) 用中空ラックバー」等の商品開発のほかに、ヨーロッパのオートバイ市場を目指した「フロントフォークインナーチューブ」の商品開発、研究に注力しております。

なお、「焼入液冷却能測定器」の改良と普及にも取り組んでおります。

上記のほか、技術本部、ファインテクノセンター ( F T C ) において、グループ全体に係わる技術課題の研究開発や調査分析・試験を実施しております。

当社の固有技術である誘導加熱熱処理 ( I H ) をさらに発展させるべく「2周波電源」の工場使用による熟成を図っており、品質管理システム強化のために独自開発した「焼入れステーションVIZ監視装置」についても工場と協働で実用化に取り組んでおります。また、当社の固有技術のひとつの直接通電加熱 ( D H ) についても、種々の薄鋼板を主体に適用技術開発を進めております。

平成21年1月に発足した「先端加工技術センター」では、省エネ省資源が特徴の「軸肥大径加工技術」による長

尺品や難加工特殊部品などの受託加工で実績を積み重ねており、さらに受注拡大を目指した試作開発活動を強化し、一方では基礎技術の進化を目指した大学との共同研究開発を進めております。

F T Cでは、基本コンセプトである「高周波熱処理技術の熟成と開発」を目指し、各事業所はもとよりお客様とも協働して、高強度化と定・低（ダブル・テイ）変形焼入技術開発をねらいに、超急速短時間加熱焼入れ（S R I Q）の適用拡大や窒化・浸炭と高周波焼入れの複合処理、複雑形状部品の低変形化等、種々の新たな高周波焼入適用法の開発実用化を進めております。

コンピュータによる高周波熱処理シミュレーション（C A E）技術は、変形や残留応力予測にも拡大し、実物品データとのリンクを強化して適用例を増やしながら高精度化を進めており、現業だけでなくお客様からの要望も増加し、当社グループ各部門の技術開発と販売活動を支えています。また、高周波焼入れに関する技術データの蓄積とデータベース化や作業標準の作成も進めており、今まで蓄積してきた技術情報と技術技能の伝承に役立っています。

さらに、工場やお客様とのより身近な技術開発を目指す「熱処理技術センターF T C」（湘南・中部）では多種多様な試作や技術開発を実施し、装置販売や受託加工に結びついております。

主な大学との共同研究を含めて、研究成果は知的財産を確保後、学会・協会等でも発表し、学術データと実用データの双方に裏付けられた新技術、新商品開発を積極的に進めており、技術スタッフは、お客様や学会・協会、研究機関でのセミナーにて技術講演を多数実施しており、高周波熱処理技術の普及拡大に努めております。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループ（当社及び連結子会社）の連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づいて作成されております。この連結財務諸表を作成するにあたり重要となる会計方針については、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載されているとおりであります。

当社グループは、退職給付引当金、税効果会計、貸倒引当金、たな卸資産の評価、投資その他の資産の評価、訴訟等の偶発事象に関して、過去の実績や当該取引の状況に照らして、合理的と考えられる見積り及び判断を行い、その結果を資産・負債の帳簿価額及び収益・費用の金額に反映して連結財務諸表を作成していますが、実際の結果は見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

### (2) 当連結会計年度の経営成績の分析

当連結会計年度は、前連結会計年度後半からの急激な経済環境の悪化の影響を強く受け、特に上半期は、顧客からの受注が低水準で推移しました。下半期になって、受注は回復基調で推移しましたが、そのスピードは緩やかなものであり、また業種によってもばらつきが生じております。

一方、中国においては、景気回復の足取りに力強さが感じられ、当社グループの中国の子会社についても、受注の回復は日本に比べて早く、業績も向上してまいりました。しかし、米国においては、積極的な受注活動を展開したものの、自動車業界の冷え込みもあり、業績向上に資する受注増には結び付きませんでした。

このような状況を受け、当社グループとしても新規受注の開拓、コスト低減にグループ一丸となって取り組んでまいりましたが、売上高減少の影響が大きく、利益面でも厳しい状況となりました。

当連結会計年度の業績について主たる要因を事業の種類別セグメントごとに分析すると、以下のようになります。

製品事業部関連事業セグメントにおいては、公共投資が絞り込まれるなか、民間需要も減少し、土木・建築業界の需要の回復は鈍く、従って当社の主力製品の受注量は低水準で推移しました。一方、高強度ばね鋼線（I T W）については、特に下半期になって、自動車業界からの受注量が回復しました。しかし、米国子会社が営業損失となったこともあり、利益面では厳しい状況となりました。

加工・電機関連事業セグメントのうち熱処理受託加工関連事業につきましては、自動車業界向けを中心に受注が回復してきております。しかし、建設機械、工作機械業界からの受注は、一部を除き回復しておらず、上半期のマイナス分をカバーするには至っておりません。なお、当連結会計年度から当社神戸工場において建設機械部品関連の事業を開始しておりますが、この事業については、受注は堅調に推移しております。

一方、誘導加熱装置関連事業は、顧客の設備投資抑制の影響を強く受け、受注が大幅に落ち込みました。下半期になり若干ながら回復に転じておりますが、設備投資抑制の傾向は今後もしばらく続くものと思われま

また、賃貸事業他セグメントにおいては、当社が所有している賃貸物件からは、引き続き安定的な収入が確保できました。

### (3) 経営成績に重要な影響を与える要因について

重要顧客からの受注減少に関するリスクについては、これまで生産革新活動を全社的に展開し、生産現場の改善を行うことにより、生産性の向上を図ってまいりました。今後もこれを継続することにより、重要顧客からの受注が減少した場合でも業績の悪化を最小限度に抑えることができる体制を構築いたします。

製品品質に関するリスクについては、これまでもISO9000の認証取得などについて積極的に取り組み、品質保証体制の確立に鋭意努めております。また、本社に品質保証本部を設置しており、全社横断的な品質保証体制を構築しております。

調達資材等の価格変動に関するリスクについては、鋼材価格の動向を常に注視するとともに、販売戦略、コスト戦略両面で適切に対応してまいります。

### (4) 経営戦略の現状と見通し

当社グループは、経営環境の激変により中期経営計画（3ヵ年計画）の策定を一時中断しておりましたが、当連結会計年度において、「たゆまぬ自己変革に努め、常に成長する」企業グループを目指して、2009年度から創業65周年を迎える2011年度までの3年間を実行期間とする第11次中期経営計画「革新への挑戦と飛躍・65」を策定しました。

2009年3月に終了した第10次中期経営計画「VALUE UP 10-20」において実行した「成長戦略」等で得た成果をさらに発展すべく、第11次中期経営計画においては、「人財の確保と育成」の経営方針を加えたうえで、第10次中期経営計画で投入した経営資源の果実を獲得することに注力します。

そして、創業65周年（2011年）、さらにその先を睨み、当社グループに属する全員が一致団結し、革新への挑戦を断行し、将来にわたり持続的に成長する企業グループとして飛躍していくことを目指します。

また、持続的な企業価値向上のため、当社グループの事業基盤の強化とともに、企業の社会的責任（CSR）を果たすべく、地球温暖化防止への取り組み等の諸施策も実行してまいり所存です。

### (5) 資本の源泉及び資金の流動性についての分析

当連結会計年度末における総資産は60,846百万円（前年同期比0.1%減）となりました。この主な要因は、流動資産のうち現金及び預金や有価証券などが増加したものの、大きな設備投資案件が一段落したため、有形固定資産が減少したことなどによります。

当連結会計年度末における負債は12,388百万円（前年同期比2.8%減）となりました。この主な要因は、保有する株式の時価の上昇により繰延税金負債が増加したものの、支払手形及び買掛金や長期借入金が増加したことなどによります。

当連結会計年度末における純資産は48,458百万円（前年同期比0.6%増）となりました。この主な要因は、利益剰余金の減少、自己株式の取得などがありましたが、保有する株式の時価の上昇によりその他有価証券評価差額金が増加したことなどによります。

この結果、当連結会計年度末における自己資本比率は75.7%となりました。

また、キャッシュ・フローについては、当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、7,346百万円（前連結会計年度末と比べて423百万円の増加）となっておりますが、その内訳は以下のとおりであります。

営業活動の結果得られた資金は、4,601百万円（前年同期は6,071百万円の収入）ですが、これは、前連結会計年度と比較し売上債権の減少額が大幅に減少し、かつ法人税等が還付となったものの、税金等調整前当期純利益、減損損失などが減少したことなどによります。

投資活動の結果支出した資金は、3,076百万円（前年同期は4,558百万円の支出）ですが、これは、有価証券の取得による支出が600百万円、投資有価証券の取得による支出が371百万円あったものの、有形固定資産の取得による支出が前連結会計年度と比較し2,472百万円少ない2,688百万円にとどまったことなどによります。

財務活動の結果支出した資金は、1,101百万円（前年同期は422百万円の支出）ですが、これは、長期借入れによる収入が215百万円と少額であったこと、前連結会計年度には子会社の増資による少数株主からの払込みによる収入が発生しましたが、当連結会計年度は、該当事項が無かったことなどによります。

なお、当社グループ（当社）では、これまで、流動性を補完するものとして、当社の主力取引銀行との間でコミットメントライン契約を締結しておりましたが、当連結会計年度において、全て契約を終了しております。

(6) 経営者の問題認識と今後の方針について

昨年度後半からの受注の大幅な減少を受け事業環境が厳しさを増すなか、緊急経営改善策として原価低減努力を継続してまいりました。今後もさらに徹底して取り組んでまいります。

また、第11次中期経営計画「革新への挑戦と飛躍・65」に掲げた、①成長戦略の遂行、②事業基盤の強化、③高効率化の追求、④人財の確保と育成等の経営課題について着実に取り組むことにより、経営体質の強化を図り、ネツレングループの企業価値のさらなる向上に邁進していく所存であります。

なお、上記のうち今後の見通しに関する事項につきましては、有価証券報告書提出日現在の判断によるものであります。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループ（当社及び連結子会社）は、新商品、新事業関連の投資及び受注に対応するための設備投資に注力してまいりました。また、大規模な投資案件が一段落したこと、経営環境の激変などにより、合理化投資にも意を用いて実施してまいりました。個々の投資案件については、その投資効果について、投資回収の基準を設定し、厳しく吟味をしております。

設備投資に用いる資金は、主として自己資金でまかなっております。

当連結会計年度の設備投資額は、3,013百万円となりますが、各事業の種類別セグメントの主な内容は以下のとおりであります。

##### （製品事業部関連事業）

国内においては、合理化及び更新に係る投資を中心に実施しております。

また、海外においては、上海中煉線材有限公司において取用による移転のための投資とともに、生産設備増強のための投資も実施しております。

当セグメントにおける設備投資額は、1,227百万円となりました。

##### （加工・電機関連事業）

顧客ニーズに対応するため、生産拠点の再編や新規事業のための投資を中心に実施しております。

具体的には、平成21年6月に稼働を開始した当社神戸工場（兵庫県神戸市北区）の生産設備に関する投資、同じく当連結会計年度に稼働を開始した、当社加賀分工場（石川県加賀市）、当社宝達志水分工場（石川県羽咋郡宝達志水町）の生産設備に関する投資も実施しております。

当セグメントにおける設備投資額は、1,598百万円となりました。

##### （賃貸事業他）

この事業セグメントの投資は、主として貸与設備に係るものであります。

当セグメントにおける設備投資額は、182百万円となりました。

なお、当連結会計年度において、当社が「オーバルコート大崎マークウエスト」に所有する賃貸用オフィス4.5フロアのうち、2フロアを売却しております。

また、上記以外に全社に係る設備投資を4百万円実施しております。

## 2【主要な設備の状況】

### (1) 提出会社

平成22年3月31日現在

事業所名 (所在地)	事業の種類 別セグメン トの名称	設備の内容	帳簿価額（百万円）					従業員数 (人) 外(臨時雇用 者)
			建物及び 構築物	機械装置及 び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
寒川工場 (神奈川県高座郡寒川町)	加工・電機 関連事業	熱処理設備	155	565	1,542 (14,346)	67	2,331	36 (14)
尼崎工場 (兵庫県尼崎市)	加工・電機 関連事業	熱処理設備	748	786	1,295 (10,320)	5	2,837	47 (13)
刈谷工場 (愛知県刈谷市)	加工・電機 関連事業	熱処理設備	405	950	783 (16,825)	40	2,180	76 (57)
可児工場 (岐阜県可児市)	加工・電機 関連事業	自動車部品等製造 設備	261	813	992 (29,495)	11	2,077	23 (3)
岡山工場 (岡山県総社市)	加工・電機 関連事業	熱処理設備	530	684	290 (19,533)	99	1,604	38 (14)
神戸工場 (兵庫県神戸市北区)	加工・電機 関連事業	建設機械部品等 製造設備	907	395	919 (38,300)	43	2,265	42 (4)
平塚工場 (神奈川県平塚市)	製品事業部 関連事業	高強度ばね製造設 備	71	300	—	9	381	28 (2)
平塚工場 (神奈川県平塚市)	加工・電機 関連事業	機械製造設備	234	25	515 (23,560)	19	794	94 (6)
赤穂工場 (兵庫県赤穂市)	製品事業部 関連事業	P C 鋼棒製造設備	683	806	185 (62,629)	41	1,717	115 (10)
いわき工場 (福島県いわき市)	製品事業部 関連事業	P C 鋼棒製造設備	907	477	879 (56,344)	13	2,278	64 (7)
技術本部 (神奈川県平塚市)	全社共通	その他設備	140	141	24 (1,547)	52	359	42 —
本社 (東京都品川区)	全社共通	その他設備	1,172	3	1,130 (3,989)	17	2,324	68 (8)



## (2) 国内子会社

平成22年3月31日現在

会社名 (所在地)	事業の種類別 セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額 (百万円)					従業員数 (人) 外(臨時雇用者)
			建物及び 構築物	機械装置及 び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
九州高周波熱錬㈱ (福岡県北九州市若松区)	加工・電機 関連事業	熱処理設備	11	79	144 (6,482)	1	236	23 (6)
㈱ネツレン・竜ヶ崎 (茨城県稲敷市)	加工・電機 関連事業	熱処理設備	23	75	0 (2,176)	2	100	20 —
㈱ネツレン小松 (石川県小松市)	加工・電機 関連事業	熱処理設備	84	231	101 (5,980)	8	425	52 (1)
㈱旭電波工業所 (東京都東久留米市)	加工・電機 関連事業	機械部品等 製造設備	47	1	168 (591)	0	217	15 (1)

## (3) 在外子会社

平成22年3月31日現在

会社名 (所在地)	事業の種類別 セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額 (百万円)					従業員数 (人) 外(臨時雇用者)
			建物及び 構築物	機械装置及 び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
上海中煉線材有限公司 (中国上海市)	製品事業部 関連事業	高強度ばね鋼 線製造設備	524	931	—	8	1,464	77
ネツレンアメリカコーポ レーション (米国オハイオ州)	製品事業部 関連事業	高強度ばね鋼 線製造設備	605	504	61 (55,658)	19	1,190	15
塩城高周波熱錬有限公司 (中国江蘇省)	加工・電機 関連事業	機械製造設備 熱処理設備	60	66	—	11	138	67
広州豊東熱錬有限公司 (中国広東省)	加工・電機 関連事業	熱処理設備	114	158	—	7	280	32

(注) 1 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

2 帳簿価額の「その他」は工具器具備品、リース資産及び建設仮勘定であります。

3 提出会社の本社には他のセグメントに所属する従業員が含まれております。

4 提出会社の本社には、賃貸事業用設備が含まれております。このうち、連結会社以外へ賃貸している主なものは以下のとおりであります。

三井不動産㈱ 建物及び構築物 662百万円 土地 649百万円 (2,493㎡ 東京都品川区)

5 連結会社以外から賃借している主な設備は以下のとおりであります。

会社名	事業所名	事業の種類別 セグメントの名称	設備の内容	年間賃借及び リース料 (百万円)
高周波熱錬㈱ (提出会社)	製品事業部	製品事業部関連事業	新生産管理システム (ソフトウェア)	15
高周波熱錬㈱ (提出会社)	製品事業部	製品事業部関連事業	フープ筋溶接機	8
高周波熱錬㈱ (提出会社)	製品事業部	製品事業部関連事業	新生産管理システム (ハードウェア)	5

### 3【設備の新設、除却等の計画】

#### (1) 重要な設備の新設等

製品事業部関連事業、加工・電機関連事業ともに、合理化目的の投資を中心に実施してまいります。

当連結会計年度後1年間の重要な設備の新設等に係わる投資予定金額は約1,550百万円を予定しております。このための資金調達については、それぞれ最適な手段を選択して実施していく予定であります。基本的には、自己資金でまかなう計画であります。なお、個々の設備投資案件については、経営環境の変化に伴い、その効果を厳しく吟味しつつ実施してまいります。

設備投資予定額の事業の種類別セグメントごとの内訳は以下のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	投資予定額（百万円）	設備等の主な内容・目的
製品事業部関連事業	230	合理化投資、新商品関連投資
加工・電機関連事業	1,160	合理化投資、新商品関連投資
全社（共通）	160	試験設備、IT投資他
合計	1,550	

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

#### (2) 重要な設備の除却等

当社が「オーバルコート大崎マークウエスト」に所有する賃貸用オフィス4.5フロアのうち、2フロアの売却を完了しておりますが、さらに1フロアを売却する予定です。

また、尼崎工場への集約合理化が完了したため、旧大阪工場の跡地につき、売却予定であります。

上記はいずれも賃貸事業他セグメントの資産であります。

そのほかには、経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	150,000,000
計	150,000,000

##### ②【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成22年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成22年6月25日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	44,713,930	44,713,930	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	44,713,930	44,713,930	—	—

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

平成22年2月1日以後に開始する事業年度に係る有価証券報告書から適用されるため、記載事項はありません。

#### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成17年4月1日～ 平成18年3月31日 (注)	2,070,557	44,337,465	635	6,302	635	1,420
平成18年4月1日～ 平成19年3月31日 (注)	310,993	44,648,458	95	6,398	95	1,515
平成19年4月1日～ 平成20年3月31日 (注)	65,472	44,713,930	20	6,418	20	1,535

(注) 発行済株式総数、資本金及び資本準備金の増加は新株予約権の行使によるものであります。

## (6) 【所有者別状況】

平成22年3月31日現在

区分	株式の状況（1単元の株式数100株）								単元未満株式の状況 （株）
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数（人）	－	35	25	120	93	1	4,341	4,615	－
所有株式数（単元）	－	184,211	1,167	142,694	27,041	1	91,632	446,746	39,330
所有株式数の割合（％）	－	41.24	0.26	31.93	6.05	0.00	20.52	100.00	－

（注） 自己株式1,673,424株は、「個人その他」に16,734単元及び「単元未満株式の状況」に24株含まれておりません。

## (7) 【大株主の状況】

平成22年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 （千株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	東京都中央区晴海1-8-11	5,506	12.32
新日本製鐵株式会社	東京都千代田区丸の内2-6-1	4,101	9.17
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	東京都港区浜松町2-11-3	2,469	5.52
株式会社メタルワン	東京都港区芝3-23-1	2,288	5.12
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	1,432	3.20
JFEスチール株式会社	東京都千代田区内幸町2-2-3	1,171	2.62
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区有楽町1-1-2	907	2.03
NTN株式会社	大阪府大阪市西区京町堀1-3-17	836	1.87
第一生命保険相互会社	東京都千代田区有楽町1-13-1	826	1.85
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口9）	東京都中央区晴海1-8-11	818	1.83
計	－	20,357	45.53

（注） 1 自己株式（所有株式数1,673千株、発行済株式総数に対する所有株式数の割合3.74％）は、上記の表には含まれておりません。

2 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	5,506千株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	2,469千株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口9）	818千株

- 3 ①株式会社りそな銀行及び共同保有者（りそな信託銀行株式会社（りそな銀行との合併により消滅）及び預金保険機構）から、平成21年4月21日付で提出された大量保有報告書（変更報告書）の写しにより平成21年4月15日現在でそれぞれ以下のとおり株式を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として期末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
株式会社りそな銀行	大阪府大阪市中央区備後町2-2-1	株式 2,743,100	6.13
りそな信託銀行株式会社	東京都千代田区大手町1-1-2	株式 —	—
預金保険機構	東京都千代田区有楽町1-12-1	株式 77,800	0.17

- ②株式会社三菱東京UFJ銀行及び共同保有者（三菱UFJ信託銀行株式会社、三菱UFJ投信株式会社及び三菱UFJアセット・マネジメント(UK)）から、平成21年8月31日付で提出された大量保有報告書（変更報告書）の写しにより平成21年8月24日現在でそれぞれ以下のとおり株式を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として期末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	株式 1,432,100	3.20
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1-4-5	株式 704,900	1.58
三菱UFJ投信株式会社	東京都千代田区丸の内1-4-5	株式 143,500	0.30
三菱UFJアセット・マネジメント(UK)	12-15Finsbury Circus, London, EC2M 7BT, United Kingdom	株式 76,300	0.17

- ③住友信託銀行株式会社及び共同保有者（日興アセットマネジメント株式会社）から平成21年10月21日付で提出された大量保有報告書（変更報告書）の写しにより平成21年10月15日現在でそれぞれ以下のとおり株式を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として期末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
住友信託銀行株式会社	大阪府大阪市中央区北浜4-5-33	株式 3,624,600	8.11
日興アセットマネジメント株式会社	東京都港区赤坂9-7-1	株式 130,700	0.29

## (8) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

平成22年3月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,673,400	—	単元株式数 100株
	(相互保有株式) 普通株式 1,000	—	同上
完全議決権株式 (その他)	普通株式 43,000,200	430,002	同上
単元未満株式	普通株式 39,330	—	—
発行済株式総数	44,713,930	—	—
総株主の議決権	—	430,002	—

## ② 【自己株式等】

平成22年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
(自己保有株式) 高周波熱錬㈱	東京都品川区東五反田 2-17-1	1,673,400	—	1,673,400	3.74
(相互保有株式) ㈱ネツレン・ヒラカタ	大阪府枚方市春日西町 2-26-35	1,000	—	1,000	0.00
計	—	1,674,400	—	1,674,400	3.74

## (9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得及び会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

### (1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2) 【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数 (株)	価額の総額 (円)
取締役会 (平成22年1月14日) での決議状況 (取得期間 平成22年1月15日～平成22年1月15日)	557,400	352,276,800
当事業年度前における取得自己株式	—	—
当事業年度における取得自己株式	557,400	352,276,800
残存決議株式の総数及び価額の総額	—	—
当事業年度の末日現在の未行使割合 (%)	—	—
当期間における取得自己株式	—	—
提出日現在の未行使割合 (%)	—	—

### (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数 (株)	価額の総額 (円)
当事業年度における取得自己株式	1,015	632,584
当期間における取得自己株式	297	218,362

(注) 当期間における取得自己株式には、平成22年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他 (単元未満株式の買増請求による売渡し)	65	57,721	—	—
保有自己株式数	1,673,424	—	1,673,721	—

(注) 1 当期間における処理自己株式数には、平成22年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買増請求による売渡株式は含まれておりません。

2 当期間における保有自己株式数には、平成22年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び買増請求による売渡株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は、長期的な企業競争力の強化と企業価値の最大化を目指し、重点分野への設備投資や研究開発投資への充當を図るべく、内部留保の充実に意を尽くすとともに、株主の皆様への配当につきましては、安定した配当を継続していくという方針に加え、当社グループを取り巻く経営環境及び各期の業績等を総合的に勘案のうえ、決定していくことを基本方針としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当期の剰余金の配当につきましては、受注は徐々に回復しつつあるとはいえ、先行き不透明感が払拭できない状態であることから、上記方針に基づき、通期配当金は1株について普通配当10円（うち中間配当5円）とさせていただきます。この結果、当期は配当性向122.1%、自己資本利益率0.9%、純資産配当率1.0%となりました。

なお、内部留保金につきましては、合理化投資、研究開発投資など環境変化に対応しつつ、将来の利益に貢献する分野を中心に投資する所存であります。

当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日の株主名簿に記録された株主若しくは登録株式質権者に対し、中間配当を行なうことができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成21年11月5日 取締役会決議	217	5
平成22年6月25日 定時株主総会決議	215	5



#### 4 【株価の推移】

##### (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第95期	第96期	第97期	第98期	第99期
決算年月	平成18年3月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月
最高(円)	1,485	1,576	1,750	1,248	800
最低(円)	736	1,132	882	424	499

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

##### (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成21年10月	11月	12月	平成22年1月	2月	3月
最高(円)	690	656	629	642	564	741
最低(円)	618	499	516	555	513	530

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役会長 (代表取締役)		山下 英治	昭和15年1月7日生	昭和44年1月 ㈱三井三池製作所鑄造課製造係長 昭和47年10月 当社入社 昭和63年10月 当社製品事業部製造部長 平成3年6月 当社取締役 平成7年4月 当社常務取締役 平成12年6月 当社専務取締役 平成13年6月 当社代表取締役専務取締役 平成15年6月 当社代表取締役社長 平成22年4月 当社代表取締役会長(現任)	(注) 5	47
取締役社長 (代表取締役)		福原 哲一	昭和20年8月17日生	昭和43年4月 古河電気工業㈱入社 昭和48年1月 当社入社 平成9年4月 当社電機事業部製造部長、電機事業部開発部長 平成9年6月 当社取締役 平成15年6月 当社常務取締役 平成19年6月 当社専務取締役 平成21年6月 当社代表取締役専務取締役 平成22年4月 当社代表取締役社長(現任)	(注) 5	29
専務取締役	経営企画・経理・財務・労政・法務・人事・CSR・コンプライアンス・総務・広報・安全衛生担当、管理本部長	砂古 豊幸	昭和23年4月14日生	平成8年10月 長銀投資顧問㈱ [現 ユービーエスグローバルアセットマネジメント ㈱] 取締役 平成10年4月 当社入社 平成11年7月 当社経理部長 平成12年6月 当社取締役 平成15年6月 当社常務取締役 平成17年6月 ㈱ネツレン・名南代表取締役(現任) 平成19年6月 当社専務取締役 平成22年4月 当社専務取締役経営企画・経理・財務・労政・法務・人事・CSR・コンプライアンス・総務・広報・安全衛生担当、管理本部長(現任)	(注) 5	25
専務取締役	経営企画・生産・調達・設備・環境担当、製品事業部長、調達本部長	萩野 學	昭和23年2月14日生	昭和45年3月 当社入社 平成14年2月 当社製品事業部副事業部長、製品事業部製造部長 平成15年6月 当社取締役 平成15年12月 ネットレン・ユー・エス・エー Inc. 代表取締役(現任) 平成17年6月 当社常務取締役 平成19年1月 ネットレンアメリカコーポレーション 代表取締役(現任) 平成22年4月 当社専務取締役経営企画・生産・調達・設備・環境担当、製品事業部長、調達本部長(現任)	(注) 5	16

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
常務取締役	I H事業部長	新田 一	昭和21年11月12日生	昭和44年4月 平成10年10月 平成12年6月 平成13年4月 平成15年6月 平成22年4月	当社入社 当社技術本部技術部長、ファインテ クノセンター長 当社取締役 ㈱ネツレン・ヒートトリート代表取 締役(現任) 当社常務取締役 当社常務取締役 I H事業部長(現任)	(注) 5	27
常務取締役	技術開発・知的財産・技術統括・技術協力・品質保証担当、技術本部長、品質保証本部長	川寄 一博	昭和25年6月5日生	昭和48年3月 平成13年4月 平成13年6月 平成17年6月 平成22年4月	当社入社 当社技術本部技術部長、ファインテ クノセンター長 当社取締役 当社常務取締役 当社常務取締役技術開発・知的財 産・技術統括・技術協力・品質保証 担当、技術本部長、品質保証本部長 (現任)	(注) 5	25
取締役	TQM推進本部長、製品事業部副事業部長、製品事業部製造部長	溝口 茂	昭和28年9月1日生	昭和52年4月 平成15年6月 平成19年6月 平成21年6月	当社入社 当社製品事業部製造部長 当社取締役 当社取締役TQM推進本部長、製品事業部副事業部長、製品事業部製造部長(現任)	(注) 5	6
取締役	I H事業部副事業部長、I H事業部加工部長	中尾 安幸	昭和27年7月22日生	昭和53年4月 平成18年4月 平成19年10月 平成22年4月 平成22年5月 平成22年6月	新日本製鐵株式会社入社 当社出向受入 当社入社 当社理事 I H事業部副事業部長、I H事業部加工部長 広州豊東熱煉有限公司董事長(現任) 当社取締役 I H事業部副事業部長、I H事業部加工部長(現任)	(注) 5	—
取締役		齊藤 誠	昭和21年1月30日生	昭和53年4月 昭和62年5月 平成12年6月 平成14年4月 平成19年6月	弁護士登録(東京弁護士会) 齊藤一好法律事務所入所 当社監査役 弁護士法人齊藤法律事務所設立、代表者社員(現任) 当社取締役(現任)	(注) 5	2

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
監査役 (常勤)		沼田 恵	昭和25年5月28日生	昭和48年3月 当社入社 平成15年4月 当社製品事業部営業部長、営業本部 営業企画部長 平成15年6月 当社取締役 平成21年6月 当社監査役(現任)	(注) 4	12
監査役		原 安洋	昭和16年4月11日生	平成13年6月 ㈱トキメック [現 東京計器㈱] 監 査役(現任) 平成16年6月 当社監査役(現任)	(注) 3	1
監査役		浦部 善和	昭和21年3月15日生	平成18年4月 三菱商事㈱イノベーションセンター シニアアドバイザー 平成19年6月 当社監査役(現任)	(注) 3	0
計						195

(注) 1 取締役齊藤誠は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。

2 監査役原安洋及び監査役浦部善和は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

3 平成20年6月26日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

4 平成21年6月25日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

5 平成22年6月25日開催の定時株主総会の終結の時から1年間

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### ① コーポレート・ガバナンス体制

##### (コーポレート・ガバナンス体制の概要)

当社では、「株主、顧客、従業員、社会との調和及び共生を通じた企業価値の増大化」を図るため、コーポレート・ガバナンスを「経営の透明性、公正性を確保する最重要な経営機能」の一つと位置付けております。

このような認識のもと、将来に向けて当社が持続的に成長する会社となることを目指し、経営における意思決定の迅速化、効率化に注力するとともに、業務執行に対する監督機能強化のための体制を整備してまいります。

具体的な当社の会社の機関及び体制は以下のとおりとなっております。

取締役会は、法令、定款で定められた事項及び経営に関する重要事項を決定し、取締役の職務執行を監督するための機関として、定時取締役会を毎月1回以上開催するとともに、必要に応じ機動的に臨時取締役会を開催しております。当社の取締役は11名以内とする旨定款に定めております。なお、有価証券報告書提出日現在の取締役9名のうち1名は社外取締役であります。

また、平成21年6月25日の定時株主総会において、定款の変更を決議し、取締役の任期を2年から1年に短縮しております。これは、急激に変化する経営環境に迅速に対応するとともに、機動的かつ効率的な事業展開を行い、事業年度毎の取締役の経営責任をより明確にするためであります。

一方、経営における意思決定の迅速化、効率化に対応するため、役付取締役を構成員とした常務会を毎月1回以上開催し、経営の基本方針、戦略、計画及び重要事項を協議しております。

また、取締役及び各部門の部門長を構成員とした経営会議を毎月1回以上開催し、各部門及び関係会社の経営状況及び経営課題につき報告、審議を行っております。

このほか、コンプライアンス委員会、全社CSR推進委員会及び内部統制推進委員会等を設置し、コーポレート・ガバナンスの強化に努めております。

当社は、監査役制度を採用しており、有価証券報告書提出日現在の監査役3名のうち2名が社外監査役であります。

なお、当社と社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しており、その限度額は法令が定める額としております。

##### (上記のコーポレート・ガバナンス体制を採用する理由)

当社のコーポレート・ガバナンス体制は、上記記載のとおり、会議、委員会及び社内規程等によるものに加え、本社部門及び事業部等各部門間の相互牽制体制を確立することにより機能していると認識しております。これを社外取締役と監査役会等が連携することで、より一層の体制確保が可能になると判断しているためであります。

##### (内部統制システムの整備の状況)

#### a 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

法令及び会社規程に従い、取締役は、その職務執行に係る情報を文書または電磁的媒体（以下、文書等という）に記録し、適切に保存し、管理しております。

取締役及び監査役は、文書取扱規程等会社規程の定めに基づき、常時、これらの文書等を閲覧できるものとしております。

#### b 損失の危険の管理に関する規程その他の体制（リスク管理体制の整備）

品質、コンプライアンス、災害、環境、情報管理等に係るリスクについては、リスクマネジメント基本規程を定め、グループ全体に周知徹底を行うとともに、ネットグループの事業に重大な影響が懸念されるリスクの未然防止及びその管理体制を整備するとともに、管理本部企画管理部が組織横断的リスク状況の監視及び全社の対応を行っております。

また、危機管理規程を定め、リスクに関する情報収集と報告方法及び問題が発生した場合の緊急対策本部設置等の対応方法を明確化するとともに、内部監査室及び安全衛生推進室が定期的に各部門のリスク管理の状況を監査し、必要に応じて取締役会、コンプライアンス委員会等に報告することとしております。

#### c 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

業務規程、稟議規程等の会社規程に基づき職務権限及び意思決定ルールを明確化することにより、適正かつ効率的に職務の執行が行われる体制をとることとしております。

また、取締役会は、各取締役の担当業務を定め、各取締役は自らの担当業務を執行することとしております。

- d 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制  
ネツレングループ経営理念、ネツレングループ企業行動倫理基準、社員等行動基準、コンプライアンス規程、情報セキュリティ基本規程及び個人情報保護規程等、経営理念、行動基準、会社規程に従い、取締役及び社員等は、法令等を遵守するとともに、適切に当社グループの社会的責任を果たすこととしております。また、これを徹底するため、コンプライアンス規程の定めに従い、社長を議長とするコンプライアンス委員会を定期的開催し、さらに、内部通報制度（コンプライアンス・ヘルプライン）を常時設置することにより、コンプライアンス上疑義のある行為等について、社員等から直接情報提供が行える体制をとることとしております。  
また、取締役及び社員等は、反社会的勢力対応管理規程等に基づき、グループ全体において、社会的な秩序及び企業の健全な活動に悪影響を与えるあらゆる個人・団体とは、一切の関わりを持たないこととしております。
- e 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制  
関係会社管理規程等により、子会社及び関連会社ごとに管理担当部門及び管理担当部門長を定め、その管理担当部門長にコンプライアンス体制、リスク管理体制等を構築する責任を与えております。  
また、定期的にグループ経営会議を開催することにより、各子会社及び関連会社の経営状況を把握するとともに、グループ全体の情報共有化を図ることとしております。  
さらに、監査役、内部監査室、安全衛生推進室及びコンプライアンス委員会はこれらを定期的に監査・監督することにより、グループ内において業務の適正を確保することとしております。  
なお、財務報告の信頼性確保については、代表取締役社長直轄の内部統制統括部及び内部統制推進委員会等を設置のうえ、財務報告に係る内部統制基本方針及び財務報告に係る内部統制運用規程に基づき、グループ内における財務報告に係る内部統制体制の整備を進め、これを適切に運用することとしております。
- f 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項  
監査役は、必要がある時は、内部監査室等の要員に対し、その補助者として監査業務を行うよう指揮命令できることとしております。
- g 前号の使用人の取締役からの独立性に関する事項  
前号補助者の人事異動については、監査役会の事前の同意を得なければならないものとしております。
- h 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制  
取締役及び社員等は、監査役に対して、遅滞なく、法定の事項に加え、当社グループに重大な影響を及ぼす事項、内部監査の実施状況、コンプライアンス・ヘルプラインによる内部通報内容を報告しております。  
監査役は、経営に関する重要な会議に参加できるものとし、また緊急性を要する場合は、取締役及び社員等は、遅滞なく、監査役に対して当該情報を報告することとしております。
- i その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制  
取締役は、監査役に対し、重要な稟議書等を供覧することにより、監査役が重要な経営情報を取得できることとしております。  
また、代表取締役は、必要に応じて、監査役及び会計監査人等と意見交換の場を持ち、意思の疎通を図ることとしております。

## ② 内部監査及び監査役監査の状況

上記（コーポレート・ガバナンス体制の概要）に記載のとおり、当社は、監査役制度を採用しており、有価証券報告書提出日現在の監査役3名のうち2名が社外監査役であります。

監査役は随時監査役会を開催するとともに、取締役会等の重要な会議への出席及び重要書類の閲覧等により取締役の職務執行状況を監査するほか、会計監査人及び内部監査室との相互連携及び関係会社から経営状況の報告を受けるなどにより監査の実効性を高めております。

監査役は、会計監査人から監査方針を含む監査計画の説明を受けるとともに、随時、会計監査の状況及び結果について意見交換を行っております。さらに、必要に応じて会計監査に立会い監査状況の確認を行っております。

内部監査室につきましては、組織上の人員は1名で構成されておりますが、監査役及び会計監査人のほか、必要に応じて内部統制統括部、安全衛生推進室、品質保証本部等のモニタリング機能を有する専門部門との連携により監査の実効性を高めております。

監査役は、内部監査室と監査計画及び結果に関する意見交換を行うとともに、随時、内部監査室の監査に立会い監査の実効性を高めております。

③ 社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は1名、社外監査役は2名であります。

社外取締役である齊藤誠は弁護士であり、その専門的な知識・経験等を当社の経営に活かすとともに独立の立場から経営を監督することが選任の最大の理由であります。その役割として期待するところは、取締役会のみならずコンプライアンス委員会等へ出席し、特に法的な側面からの助言、監督を受けることでもあります。

齊藤誠の社外取締役としての独立性に関しては、当社グループ会社、大株主企業、主要取引先等の出身者ではないこと等を踏まえ、十分に確保されていると判断しております。また、当社は、齊藤誠が株式会社東京証券取引所が指定を義務付ける一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立役員である旨の独立役員届出書を提出しております。

なお、齊藤誠は弁護士法人齊藤法律事務所の代表者社員であります。同事務所と当社との間に重要な取引はありません。

社外監査役である原安洋及び浦部善和を選任する理由は独立の立場から経営を監査するためであります。特に、原安洋は他社における監査役としての豊富な経験・知見をもって、浦部善和は他社における豊富な経験・見識を踏まえた幅広い視点をもって、監査体制の中立性及び独立性を高めることを目的としております。

なお、原安洋は東京計器株式会社の社外監査役であります。同社と当社との間に重要な取引はありません。

また、社外取締役及び社外監査役の取締役会等への出席状況及び発言状況は以下のとおりであります。

区分	氏名	出席状況及び発言状況
取締役	齊藤 誠	当期に開催された取締役会15回のすべてに出席し、主に弁護士としての専門的見地からの発言を行っております。
監査役	原 安洋	当期に開催された取締役会15回のすべてに出席し、また、当期に開催された監査役会14回のすべてに出席し、主に他社における監査役としての豊富な経験・知見からの発言を行っております。
監査役	浦部 善和	当期に開催された取締役会15回のすべてに出席し、また、当期に開催された監査役会14回のすべてに出席し、主に他社における豊富な経験・知見からの発言を行っております。

④ 役員報酬等

イ. 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	219	217	—	—	2	8
監査役 (社外監査役を除く。)	14	14	—	—	—	2
社外役員	21	21	—	—	—	3

(注) 上記の他、平成21年6月25日開催の第98回定時株主総会において、役員退職慰労金の打ち切り支給案が承認可決されました。当事業年度における今後の打ち切り支給予定額は、以下のとおりであります。なお、支給時期は各役員の退任時としております。

取締役6人 82百万円

ロ. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社の役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は、株主総会において決議された報酬額の限度内において、取締役と監査役に区分し、社内規程の定める基準に基づき、取締役報酬については取締役会により、また監査役報酬については監査役の協議により決定しております。なお、取締役(社外取締役を除く。)の報酬等の額につきましては、主として前事業年度の業績等を勘案し算定しております。また、社外取締役及び監査役につきましては、業績と連動せず会社への貢献度等を勘案し算定しております。その他詳細事項につきましては、同規程に定めております。

⑤ 株式の保有状況

イ. 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額  
60銘柄 5,705百万円

ロ. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
新日本製鐵(株)	2,882,000	1,057	取引関係強化のため。
N T N(株)	1,381,000	582	取引関係強化のため。
(株)小松製作所	279,842	548	取引関係強化のため。
電気興業(株)	722,000	350	協業関係強化のため。
知多鋼業(株)	823,800	328	取引関係強化のため。
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	484,390	239	取引関係強化のため。
高砂熱学工業(株)	273,000	202	取引関係拡大のため。
新東工業(株)	257,800	200	取引関係強化のため。
マーケットック(株)	200,000	185	取引関係強化のため。
旭コンクリート工業(株)	358,680	170	取引関係強化のため。
東ブレ(株)	227,000	168	取引関係拡大のため。
T H K(株)	57,324	116	取引関係強化のため。
デンヨー(株)	145,000	104	取引関係拡大のため。
大成建設(株)	458,000	94	取引関係強化のため。
日本精工(株)	99,692	73	取引関係強化のため。
日本パーカライジング(株)	53,000	67	取引関係拡大のため。

ハ. 保有目的が純投資目的である投資株式  
該当事項はありません。

⑥ 会計監査の状況

当社は井上監査法人による監査を受けております。会計監査業務を執行した公認会計士は、萱嶋秀雄、佐藤賢治の2名であり、会計監査業務に係る補助者は公認会計士3名、その他1名であります。

⑦ その他

ディスクロージャーにつきましては、金融商品取引法及び東京証券取引所適時開示規則等に基づき、迅速性、正確性、公平性及び平易性を重視のうえ、適時開示を行うことを基本方針としております。さらに、従来からの「IRミーティング」の実施、「機関投資家向け決算説明会」の開催に加え、事業内容の理解促進を通じた投資家層の拡大を図るため、積極的な情報開示を行っております。

⑧ 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款で定めております。

また、取締役の選任は、累積投票によらないものとする旨を定款で定めております。



⑨ 株主総会特別決議の要件

当社は、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

⑩ 株主総会決議事項の取締役会での決議

(自己の株式の取得)

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行することを目的とするものであります。

(中間配当)

当社は、株主総会の決議によらず取締役会の決議により毎年9月30日を基準日として会社法第454条第5項の規定による中間配当をすることができる旨を定款で定めております。これは、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

(取締役及び監査役の責任免除)

当社は、取締役会の決議をもって、取締役（取締役であった者を含む。）及び監査役（監査役であった者を含む。）の当社に対する損害賠償責任を法令が定める範囲で免除することができる旨を定款に定めております。これは、取締役及び監査役がその期待される役割を十分に発揮できることを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）
提出会社	26	—	26	—
連結子会社	—	—	—	—
計	26	—	26	—

② 【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、監査日数及び会社の規模を勘案して決定しております。

## 第5【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前連結会計年度（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）は、改正前の連結財務諸表規則に基づき、当連結会計年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）は、改正後の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前事業年度（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）は、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）及び当連結会計年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）の連結財務諸表並びに前事業年度（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）及び当事業年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）の財務諸表について、井上監査法人により監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は、会計基準の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、適宜、当該公益法人の行う研修への参加を実施しております。

1 【連結財務諸表等】  
 (1) 【連結財務諸表】  
 ① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,935	7,455
受取手形及び売掛金	10,853	10,675
リース債権及びリース投資資産	49	41
有価証券	—	600
商品及び製品	469	397
仕掛品	1,000	830
原材料及び貯蔵品	1,203	1,179
繰延税金資産	489	393
その他	2,446	2,249
貸倒引当金	△99	△92
流動資産合計	23,348	23,730
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	15,336	15,736
減価償却累計額	△7,722	△7,885
建物及び構築物（純額）	※2 7,613	7,850
機械装置及び運搬具	※4 34,844	※4 36,534
減価償却累計額	△25,818	△27,511
機械装置及び運搬具（純額）	9,025	9,023
土地	※4 10,206	※4 9,872
リース資産	25	42
減価償却累計額	△3	△11
リース資産（純額）	22	31
建設仮勘定	1,807	345
その他	2,048	2,105
減価償却累計額	△1,783	△1,887
その他（純額）	264	217
有形固定資産合計	28,940	27,340
無形固定資産		
のれん	395	181
その他	※2 166	245
無形固定資産合計	561	427
投資その他の資産		
投資有価証券	※1 7,746	※1 9,026
長期貸付金	276	143
繰延税金資産	11	12
その他	356	489
貸倒引当金	△321	△323
投資その他の資産合計	8,070	9,348
固定資産合計	37,572	37,116
資産合計	60,921	60,846

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,088	4,130
短期借入金	※2 2,301	2,520
リース債務	13	17
未払法人税等	221	483
繰延税金負債	—	9
賞与引当金	474	444
その他	2,363	2,493
流動負債合計	10,463	10,098
固定負債		
長期借入金	1,660	1,203
リース債務	55	53
繰延税金負債	170	618
退職給付引当金	88	116
役員退職慰労引当金	95	—
負ののれん	0	—
その他	205	296
固定負債合計	2,276	2,289
負債合計	12,739	12,388
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	6,418	6,418
資本剰余金	5,528	5,528
利益剰余金	36,960	36,835
自己株式	△1,017	△1,370
株主資本合計	47,889	47,411
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△567	183
為替換算調整勘定	△1,664	△1,503
評価・換算差額等合計	△2,232	△1,320
少数株主持分	2,524	2,367
純資産合計	48,181	48,458
負債純資産合計	60,921	60,846

## ②【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	
売上高		40,846		30,423
売上原価		※9 31,842		※1, ※9 25,230
売上総利益		9,004		5,192
販売費及び一般管理費				
販売費		2,646		2,162
一般管理費		※9 2,849		※9 2,793
販売費及び一般管理費合計		※2 5,496		※2 4,955
営業利益		3,507		236
営業外収益				
受取利息		28		27
受取配当金		254		89
有価証券売却益		0		46
受取保険金及び配当金		62		91
負ののれん償却額		2		0
持分法による投資利益		117		32
助成金収入		—		109
その他		147		158
営業外収益合計		612		554
営業外費用				
支払利息		88		101
たな卸資産廃棄損		53		—
売上債権売却損		25		11
為替差損		46		20
その他		17		14
営業外費用合計		231		147
経常利益		3,887		644
特別利益				
前期損益修正益		※3 1		※3 4
有形固定資産売却益		※4 0		※4 629
投資有価証券売却益		135		59
移転補償金		※5 482		※5 269
その他		—		91
特別利益合計		619		1,055

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
特別損失		
有形固定資産売却損	※6 2	※6 1
有形固定資産除却損	※7 68	※7 373
投資有価証券売却損	73	23
投資有価証券評価損	841	3
減損損失	※8 1,543	※8 154
損害賠償金	320	21
その他	2	68
特別損失合計	2,853	645
税金等調整前当期純利益	1,653	1,053
法人税、住民税及び事業税	506	552
過年度法人税等	73	—
法人税等調整額	△699	310
法人税等合計	△119	863
少数株主利益又は少数株主損失(△)	419	△134
当期純利益	1,353	324

## ③【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月 31日)		当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月 31日)	
<b>株主資本</b>				
<b>資本金</b>				
前期末残高		6,418		6,418
当期変動額				
当期変動額合計		—		—
当期末残高		6,418		6,418
<b>資本剰余金</b>				
前期末残高		5,529		5,528
当期変動額				
自己株式の処分		△0		△0
当期変動額合計		△0		△0
当期末残高		5,528		5,528
<b>利益剰余金</b>				
前期末残高		36,451		36,960
当期変動額				
剰余金の配当		△838		△435
当期純利益		1,353		324
持分法の適用範囲の変動		△6		△13
当期変動額合計		508		△124
当期末残高		36,960		36,835
<b>自己株式</b>				
前期末残高		△718		△1,017
当期変動額				
持分法適用会社に対する持分変動に伴う自 己株式の増減		—		0
自己株式の取得		△301		△352
自己株式の処分		2		0
当期変動額合計		△299		△352
当期末残高		△1,017		△1,370
<b>株主資本合計</b>				
前期末残高		47,680		47,889
当期変動額				
剰余金の配当		△838		△435
持分法適用会社に対する持分変動に伴う自 己株式の増減		—		0
当期純利益		1,353		324
自己株式の取得		△301		△352
自己株式の処分		1		0
持分法の適用範囲の変動		△6		△13
当期変動額合計		208		△477
当期末残高		47,889		47,411

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	921	△567
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△1,488	750
当期変動額合計	△1,488	750
当期末残高	△567	183
繰延ヘッジ損益		
前期末残高	△0	—
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	0	—
当期変動額合計	0	—
当期末残高	—	—
為替換算調整勘定		
前期末残高	△81	△1,664
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△1,582	160
当期変動額合計	△1,582	160
当期末残高	△1,664	△1,503
少数株主持分		
前期末残高	2,096	2,524
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	427	△157
当期変動額合計	427	△157
当期末残高	2,524	2,367
純資産合計		
前期末残高	50,616	48,181
当期変動額		
剰余金の配当	△838	△435
持分法適用会社に対する持分変動に伴う自己株式の増減	—	0
当期純利益	1,353	324
自己株式の取得	△301	△352
自己株式の処分	1	0
持分法の適用範囲の変動	△6	△13
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△2,643	754
当期変動額合計	△2,435	276
当期末残高	48,181	48,458



## ④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,653	1,053
減価償却費	3,151	3,044
減損損失	1,543	154
のれん償却額	57	93
負ののれん償却額	△2	△0
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	107	△5
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△367	△29
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	49	25
その他の引当金の増減額 (△は減少)	—	△95
受取利息及び受取配当金	△282	△116
支払利息	88	101
為替差損益 (△は益)	△8	7
持分法による投資損益 (△は益)	△117	△32
有形固定資産売却損益 (△は益)	2	△628
有形固定資産処分損益 (△は益)	68	373
移転補償金	△482	△269
有価証券売却損益 (△は益)	△0	△46
投資有価証券売却損益 (△は益)	△62	△35
投資有価証券評価損益 (△は益)	841	3
売上債権の増減額 (△は増加)	4,568	189
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△388	274
仕入債務の増減額 (△は減少)	△979	△961
未払消費税等の増減額 (△は減少)	33	△146
その他	△1,399	1,274
小計	8,075	4,228
利息及び配当金の受取額	292	121
利息の支払額	△87	△103
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△2,209	354
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,071	4,601

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	—	△600
有価証券の売却及び償還による収入	420	—
有形固定資産の取得による支出	△5,160	△2,688
有形固定資産の売却による収入	3	299
移転補償金の受取額	482	269
無形固定資産の取得による支出	—	△139
投資有価証券の取得による支出	△496	△371
投資有価証券の売却による収入	289	308
貸付けによる支出	△84	△27
貸付金の回収による収入	116	29
長期前払費用の取得による支出	△13	△7
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	※2 △4	—
その他	△112	△148
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,558	△3,076
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	1,310	1,931
短期借入金の返済による支出	△1,166	△1,768
長期借入れによる収入	900	215
長期借入金の返済による支出	△630	△626
自己株式の取得による支出	△301	△352
少数株主からの払込みによる収入	360	—
配当金の支払額	△838	△435
少数株主への配当金の支払額	△54	△49
その他	△1	△15
財務活動によるキャッシュ・フロー	△422	△1,101
現金及び現金同等物に係る換算差額	△108	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	982	423
現金及び現金同等物の期首残高	5,941	6,923
現金及び現金同等物の期末残高	※1 6,923	※1 7,346

【継続企業の前提に関する事項】

前連結会計年度（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）及び当連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

該当事項はありません。

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
<p>1 連結の範囲に関する事項</p> <p>(1) 連結子会社の数 12社            主要な連結子会社の名称            (株)ネツレン・ヒートトリート、(株)ネツレン・竜ヶ崎、(株)ネツレン小松、ネツレン・ユー・エス・エー Inc.、ネツレンアメリカコーポレーション、上海中煉線材有限公司、塩城高周波熱煉有限公司、広州豊東熱煉有限公司            当連結会計年度において、(株)旭電波工業所（東京都東久留米市）の株式を100%取得し連結子会社としております。</p> <p>(2) 主要な非連結子会社の名称等            会社名            (株)ネツレン・名南            (連結の範囲から除いた理由)            非連結子会社1社は、小規模会社であり、合計の総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。</p>	<p>1 連結の範囲に関する事項</p> <p>(1) 連結子会社の数 12社            主要な連結子会社の名称            同左</p> <p>(2) 主要な非連結子会社の名称等            会社名            同左            (連結の範囲から除いた理由)            同左</p>
<p>2 持分法の適用に関する事項</p> <p>(1) 持分法適用の非連結子会社数 1社            会社名 (株)ネツレン・名南</p> <p>(2) 持分法適用の関連会社数 6社            主要な会社名            (株)ネツレン・ヒラカタ、(株)ネツレン・加古川、高麗熱煉(株)、ユーエスチタCO.,LTD.、エヌティーケー精密アクスル(株)            友力熱煉股份有限公司（台湾）については、当連結会計年度において株式を売却し当社の議決権所有割合が5%となり関連会社ではなくなったため、持分法適用会社から除外しました。</p> <p>(3) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社のうち主要な会社等の名称            アール・エフ・エナジィ(株)            (持分法を適用しない理由)            持分法非適用会社1社は、当期純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用から除外しております。</p> <p>(4) 持分法の適用会社のうち、決算日が連結決算日と異なる会社については、各社の事業年度にかかる財務諸表を使用しております。</p>	<p>2 持分法の適用に関する事項</p> <p>(1) 持分法適用の非連結子会社数 1社            同左</p> <p>(2) 持分法適用の関連会社数 5社            主要な会社名            (株)ネツレン・ヒラカタ、高麗熱煉(株)、ユーエスチタCO.,LTD.、エヌティーケー精密アクスル(株)            (株)ネツレン・加古川については、当連結会計年度において株式を売却し当社の議決権所有割合が15%未満となり関連会社ではなくなったため、持分法適用会社から除外しました。</p> <p>(3) 持分法を適用しない関連会社の名称            アール・エフ・エナジィ(株)            (持分法を適用しない理由)            同左</p> <p>(4) 同左</p>
<p>3 連結子会社の事業年度等に関する事項            連結子会社12社の決算日はすべて12月31日であります。連結財務諸表の作成にあたっては同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。</p>	<p>3 連結子会社の事業年度等に関する事項            同左</p>

<p style="text-align: center;">前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>				
<p>4 会計処理基準に関する事項</p> <p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法</p> <p>① 有価証券</p> <p style="padding-left: 20px;">満期保有目的の債券 償却原価法 (定額法)</p> <p style="padding-left: 20px;">その他有価証券</p> <p style="padding-left: 40px;">時価のあるもの 決算期末日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算定しております。)</p> <p style="padding-left: 40px;">時価のないもの 主として移動平均法による原価法</p> <p>② たな卸資産</p> <p style="padding-left: 20px;">主として先入先出法による原価法 (貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)</p> <p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法</p> <p>① 有形固定資産 (リース資産を除く)</p> <p style="padding-left: 20px;">当社及び国内連結子会社は、主として定率法 (ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物 (附属設備を除く) は定額法) を採用し、在外連結子会社は主として定額法を採用しております。</p> <p style="padding-left: 40px;">なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">建物及び構築物</td> <td style="text-align: right;">5～50年</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">機械装置及び運搬具</td> <td style="text-align: right;">2～10年</td> </tr> </table> <p style="padding-left: 20px;">(追加情報)</p> <p style="padding-left: 20px;">当社の機械装置については、従来、耐用年数を4～13年としておりましたが、当連結会計年度より4～10年としております。</p> <p style="padding-left: 20px;">これは、法人税法上の法定耐用年数の見直しを踏まえ耐用年数を変更したことによるものであります。</p> <p style="padding-left: 20px;">これにより、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益は、それぞれ107百万円減少しております。</p> <p style="padding-left: 20px;">なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。</p> <p>② 無形固定資産 (リース資産を除く)</p> <p style="padding-left: 20px;">定額法を採用しております。</p> <p>③ リース資産</p> <p style="padding-left: 20px;">リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。</p> <p style="padding-left: 20px;">なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p>	建物及び構築物	5～50年	機械装置及び運搬具	2～10年	<p>4 会計処理基準に関する事項</p> <p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法</p> <p>① 有価証券</p> <p style="padding-left: 20px;">満期保有目的の債券 同左</p> <p style="padding-left: 20px;">その他有価証券</p> <p style="padding-left: 40px;">時価のあるもの 同左</p> <p style="padding-left: 40px;">時価のないもの 同左</p> <p>② たな卸資産 同左</p> <p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法</p> <p>① 有形固定資産 (リース資産を除く) 同左</p> <p>② 無形固定資産 (リース資産を除く) 同左</p> <p>③ リース資産 同左</p>
建物及び構築物	5～50年				
機械装置及び運搬具	2～10年				

<p style="text-align: center;">前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>(3) 重要な引当金の計上基準</p> <p>① 貸倒引当金 売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>② 賞与引当金 従業員の賞与の支給に充てるため、期末在籍従業員に対し、協定に基づいて計算した、賞与支給見込額を計上しております。</p> <p>③ 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき「退職給付引当金」として計上しております。 数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時のそれぞれ翌連結会計年度から定額法（10年）により費用処理しております。</p> <p>④ 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支給に充てるため、役員退職慰労金の規程による必要額を計上しております。なお、当社では平成16年6月に、平成16年7月以降新たな繰入を廃止するよう、規程を改訂しました。</p> <p>(4) 重要なヘッジ会計の方法</p> <p>① ヘッジ会計の方法 原則として繰延ヘッジ処理によっております。なお、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理によっております。</p> <p>② ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 金利スワップ取引 ヘッジ対象 借入金利</p> <p>③ ヘッジ方針 金利変動リスク等に備え相場変動を相殺又はキャッシュ・フローを固定する目的でヘッジ取引を行っております。</p> <p>④ ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジ対象のキャッシュ・フロー変動の累計又は相場変動とヘッジ手段のキャッシュ・フロー変動の累計又は相場変動を半期毎に比較し、両者の変動額等を基礎にして、ヘッジの有効性を評価しております。ただし、特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。 なお、当連結会計年度末における残高はありません。</p> <p>(5) その他連結財務諸表作成のための重要な事項 消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。</p>	<p>(3) 重要な引当金の計上基準</p> <p>① 貸倒引当金 同左</p> <p>② 賞与引当金 同左</p> <p>③ 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき「退職給付引当金」または「投資その他の資産（前払退職給付費用）」として計上しております。 数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時のそれぞれ翌連結会計年度から定額法（10年）により費用処理しております。</p> <p>④ 役員退職慰労引当金 (追加情報) 当社は、役員退職慰労金制度を廃止することとし、平成21年6月25日開催の定時株主総会決議において退職慰労金の打ち切り支給案が承認可決されました。 これにより、当連結会計年度において「役員退職慰労引当金」を全額取崩し、打ち切り支給額の未払い分については、固定負債の「その他」に含めて表示しております。</p> <p>(4) 重要なヘッジ会計の方法 —————</p> <p>(5) その他連結財務諸表作成のための重要な事項 消費税等の会計処理 同左</p>

<p style="text-align: center;">前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>5 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項 連結子会社の資産及び負債の評価については、全面時価評価法を採用しております。</p>	<p>5 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項 同左</p>
<p>6 のれん及び負ののれんの償却に関する事項 のれんの償却については、5年間の定額法により償却を行っております。</p>	<p>6 のれん及び負ののれんの償却に関する事項 同左</p>
<p>7 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない、取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。</p>	<p>7 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 同左</p>

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更】

<p>前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>(棚卸資産の評価に関する会計基準) 当連結会計年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日公表分)を適用しております。 これにより、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益は、それぞれ71百万円減少しております。 なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。</p> <p>(リース取引に関する会計基準) 所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、当連結会計年度より、借主側の処理、貸主側の処理とも、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))を適用し、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。 なお、リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を適用しております。 なお、この変更による損益への影響はありません。</p> <p>(連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い) 当連結会計年度より、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第18号 平成18年5月17日)を適用しております。 なお、この変更による損益への影響はありません。</p>	<p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>(退職給付に係る会計基準) 当連結会計年度より、「「退職給付に係る会計基準」の一部改正(その3)」(企業会計基準第19号 平成20年7月31日)を適用しております。 数理計算上の差異を翌年から償却するため、これによる営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響はありません。 また、本会計基準の適用に伴い発生する退職給付債務の差額の未処理残高は113百万円であります。</p>

【表示方法の変更】

<p>前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>(連結貸借対照表)</p> <p>「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成20年8月7日内閣府令第50号)が適用となることに伴い、前連結会計年度において、「たな卸資産」として掲記されていたものは、当連結会計年度から「商品及び製品」「仕掛品」「原材料及び貯蔵品」に区分掲記しております。なお、前連結会計年度の「たな卸資産」に含まれる「商品及び製品」「仕掛品」「原材料及び貯蔵品」は、それぞれ、338百万円、1,244百万円、744百万円です。</p>	<p>—————</p>



【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)																										
<p>※1 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">投資有価証券(株式)</td> <td style="text-align: right;">2,562百万円</td> </tr> </table> <p>※2 担保資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">建物</td> <td style="text-align: right;">62百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">その他(借地権)</td> <td style="text-align: right;">37百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right;">99百万円</td> </tr> </table> <p>上記物件は、短期借入金53百万円の担保に供しております。</p> <p>3 保証債務</p> <p>(1) 従業員持家制度による金融機関からの借入金1百万円に対し、保証を行っております。</p> <p>(2) 連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対し保証を行っております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">ユーエスチタCO., LTD.</td> <td style="text-align: right;">20百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">(US\$208千)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">P.T. コマツフォーミングインド ネシア</td> <td style="text-align: right;">261百万円</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">(US\$2,658千)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right;">281百万円</td> </tr> </table> <p>※4 圧縮記帳</p> <p>(1) いわき工場の土地取得価額について工場立地奨励金100百万円を控除しております。</p> <p>(2) いわき工場の機械及び装置取得価額について、企業立地促進事業費補助金63百万円を控除しております。</p> <p>5 当社グループ(当社)は、機動的な調達手段の確保により手元流動性を圧縮し、資金効率を高めることを目的として、取引銀行3行とコミットメントライン契約を締結しております。この契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">コミットメントの総額</td> <td style="text-align: right;">2,100百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">-百万円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">差引額</td> <td style="text-align: right;">2,100百万円</td> </tr> </table>	投資有価証券(株式)	2,562百万円	建物	62百万円	その他(借地権)	37百万円	計	99百万円	ユーエスチタCO., LTD.	20百万円		(US\$208千)	P.T. コマツフォーミングインド ネシア	261百万円		(US\$2,658千)	計	281百万円	コミットメントの総額	2,100百万円	借入実行残高	-百万円	差引額	2,100百万円	<p>※1 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">投資有価証券(株式)</td> <td style="text-align: right;">2,691百万円</td> </tr> </table> <p>※2 担保資産</p> <p>当該項目は、重要性が無くなったため、記載を省略しております。</p> <p>3 保証債務</p> <p>当該項目は、重要性が無くなったため、記載を省略しております。</p> <p>※4 圧縮記帳</p> <p style="text-align: center;">同左</p>	投資有価証券(株式)	2,691百万円
投資有価証券(株式)	2,562百万円																										
建物	62百万円																										
その他(借地権)	37百万円																										
計	99百万円																										
ユーエスチタCO., LTD.	20百万円																										
	(US\$208千)																										
P.T. コマツフォーミングインド ネシア	261百万円																										
	(US\$2,658千)																										
計	281百万円																										
コミットメントの総額	2,100百万円																										
借入実行残高	-百万円																										
差引額	2,100百万円																										
投資有価証券(株式)	2,691百万円																										

## (連結損益計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)																								
	※1 当連結会計年度末のたな卸高は、収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。 <div style="text-align: right;">76百万円</div>																								
※2 販売費及び一般管理費のうち、主要な費目及び金額は次のとおりであります。 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 80%;">運搬費</td><td style="text-align: right;">1,355百万円</td></tr> <tr><td>給料</td><td style="text-align: right;">1,098百万円</td></tr> <tr><td>賞与引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">150百万円</td></tr> <tr><td>福利厚生費</td><td style="text-align: right;">401百万円</td></tr> <tr><td>減価償却費</td><td style="text-align: right;">117百万円</td></tr> <tr><td>技術研究費</td><td style="text-align: right;">792百万円</td></tr> </table>	運搬費	1,355百万円	給料	1,098百万円	賞与引当金繰入額	150百万円	福利厚生費	401百万円	減価償却費	117百万円	技術研究費	792百万円	※2 販売費及び一般管理費のうち、主要な費目及び金額は次のとおりであります。 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 80%;">運搬費</td><td style="text-align: right;">991百万円</td></tr> <tr><td>給料</td><td style="text-align: right;">1,057百万円</td></tr> <tr><td>賞与引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">143百万円</td></tr> <tr><td>福利厚生費</td><td style="text-align: right;">386百万円</td></tr> <tr><td>減価償却費</td><td style="text-align: right;">109百万円</td></tr> <tr><td>技術研究費</td><td style="text-align: right;">663百万円</td></tr> </table>	運搬費	991百万円	給料	1,057百万円	賞与引当金繰入額	143百万円	福利厚生費	386百万円	減価償却費	109百万円	技術研究費	663百万円
運搬費	1,355百万円																								
給料	1,098百万円																								
賞与引当金繰入額	150百万円																								
福利厚生費	401百万円																								
減価償却費	117百万円																								
技術研究費	792百万円																								
運搬費	991百万円																								
給料	1,057百万円																								
賞与引当金繰入額	143百万円																								
福利厚生費	386百万円																								
減価償却費	109百万円																								
技術研究費	663百万円																								
※3 前期損益修正益は貸倒引当金戻入であります。	※3 同左																								
※4 有形固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 80%;">車輛及び運搬具</td><td style="text-align: right;">0百万円</td></tr> </table>	車輛及び運搬具	0百万円	※4 有形固定資産売却益は当社が「オーバルコート大崎マークウエスト」に所有する賃貸用オフィス4.5フロアのうち、2フロアを売却したことによるものであります。 (追加情報) 平成22年7月1日に、上記のうち、さらに1フロアを売却する計画であります。これにより、有形固定資産売却益が328百万円発生する見込みであります。																						
車輛及び運搬具	0百万円																								
※5 移転補償金は、上海中煉線材有限公司(中国)において発生したものであります。	※5 同左																								
※6 有形固定資産売却損は車輛及び運搬具の売却によるものであります。	※6 有形固定資産売却損の内訳は次のとおりであります。 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 80%;">機械装置及び運搬具</td><td style="text-align: right;">0百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">0百万円</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1百万円</td></tr> </table>	機械装置及び運搬具	0百万円	その他	0百万円	計	1百万円																		
機械装置及び運搬具	0百万円																								
その他	0百万円																								
計	1百万円																								
※7 有形固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 80%;">建物</td><td style="text-align: right;">1百万円</td></tr> <tr><td>機械及び装置</td><td style="text-align: right;">66百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">1百万円</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">68百万円</td></tr> </table>	建物	1百万円	機械及び装置	66百万円	その他	1百万円	計	68百万円	※7 有形固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 80%;">建物及び構築物</td><td style="text-align: right;">301百万円</td></tr> <tr><td>機械装置及び運搬具</td><td style="text-align: right;">70百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">1百万円</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">373百万円</td></tr> </table>	建物及び構築物	301百万円	機械装置及び運搬具	70百万円	その他	1百万円	計	373百万円								
建物	1百万円																								
機械及び装置	66百万円																								
その他	1百万円																								
計	68百万円																								
建物及び構築物	301百万円																								
機械装置及び運搬具	70百万円																								
その他	1百万円																								
計	373百万円																								

<p style="text-align: center;">前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>															
<p>※8 当社グループは、当連結会計年度において、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。</p>	<p>※8 当社グループは、当連結会計年度において、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。</p>															
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">用途</th> <th style="width: 45%;">種類</th> <th style="width: 30%;">場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>熱処理受託加工設備</td> <td>建物及び構築物・機械装置及び運搬具・土地等</td> <td>当社岡山工場 (岡山県総社市)</td> </tr> <tr> <td>自動車部品等製造設備</td> <td style="text-align: center;">同上</td> <td>当社可児工場 (岐阜県可児市)</td> </tr> </tbody> </table>	用途	種類	場所	熱処理受託加工設備	建物及び構築物・機械装置及び運搬具・土地等	当社岡山工場 (岡山県総社市)	自動車部品等製造設備	同上	当社可児工場 (岐阜県可児市)	<p>当社グループは、資産を管理会計上の区分を基準に、工場資産は主として工場単位（事業の相互補完性が認められる場合においては複数工場をひとつのグルーピングとする）、賃貸用資産は主として物件単位にグルーピングを行っております。</p> <p>①有形固定資産</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">用途</th> <th style="width: 45%;">種類</th> <th style="width: 30%;">場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>遊休（売却予定）資産</td> <td style="text-align: center;">土地</td> <td>大阪府大阪市西淀川区</td> </tr> </tbody> </table>	用途	種類	場所	遊休（売却予定）資産	土地	大阪府大阪市西淀川区
用途	種類	場所														
熱処理受託加工設備	建物及び構築物・機械装置及び運搬具・土地等	当社岡山工場 (岡山県総社市)														
自動車部品等製造設備	同上	当社可児工場 (岐阜県可児市)														
用途	種類	場所														
遊休（売却予定）資産	土地	大阪府大阪市西淀川区														
<p>当社グループは、資産を管理会計上の区分を基準に、工場資産は主として工場単位（事業の相互補完性が認められる場合においては複数工場をひとつのグルーピングとする）、賃貸用資産は主として物件単位にグルーピングを行っております。</p> <p>これらの資産グループのうち、当社岡山工場及び当社可児工場においては、急激な受注量の減少により営業損失となり、かつ翌年度も大きな回復が見込まれないことから、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。</p> <p>減損損失の内容は、建物及び構築物330百万円、機械装置及び運搬具752百万円、土地402百万円、その他57百万円です。</p> <p>また、両工場の計上額の内訳は岡山工場857百万円、可児工場686百万円です。</p> <p>なお、当社グループの回収可能価額は、主に使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを2.5%で割引いて算定しております。</p>	<p>当社旧大阪工場跡地については、生産拠点を尼崎工場に移転集約したため、当連結会計年度末現在、遊休資産となっております。当該資産については売却を予定しておりますが、回収可能価額が帳簿価額を下回ったため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し当該減少額34百万円を減損損失として計上しました。その内訳はすべて土地であります。</p> <p>なお、回収可能価額は、正味売却価額により測定しており、これには売却予定価額を用いております。</p> <p>②のれん</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">用途</th> <th style="width: 45%;">種類</th> <th style="width: 30%;">場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機械装置等製造事業</td> <td style="text-align: center;">のれん</td> <td>(株) Netz Rentakt (静岡県浜松市東区)</td> </tr> </tbody> </table> <p>経営環境が悪化したことにより株式取得時に想定した超過収益力が見込めなくなったことから、のれんについて当連結会計年度末の残高120百万円を減損損失として認識したものです。</p> <p>なお、当該資産については、回収可能額を零として減損損失を測定しております。</p>	用途	種類	場所	機械装置等製造事業	のれん	(株) Netz Rentakt (静岡県浜松市東区)									
用途	種類	場所														
機械装置等製造事業	のれん	(株) Netz Rentakt (静岡県浜松市東区)														
<p>※9 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費 792百万円</p>	<p>※9 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費 663百万円</p>															

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成20年4月1日至平成21年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(千株)	当連結会計年度増 加株式数(千株)	当連結会計年度減 少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	44,713	—	—	44,713
合計	44,713	—	—	44,713
自己株式				
普通株式(注)1、2	579	538	2	1,115
合計	579	538	2	1,115

(注)1 自己株式の増加538千株は、取締役会決議に基づく自己株式の取得による増加535千株、単元未満株式の買取りによる増加2千株であります。

2 自己株式の減少2千株は、単元未満株式の買増請求による売渡しであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成20年6月26日 定時株主総会	普通株式	397	9.0	平成20年3月31日	平成20年6月27日
平成20年11月7日 取締役会	普通株式	441	10.0	平成20年9月30日	平成20年12月8日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成21年6月25日 定時株主総会	普通株式	217	利益剰余金	5.0	平成21年3月31日	平成21年6月26日

当連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数（千株）	当連結会計年度増 加株式数（千株）	当連結会計年度減 少株式数（千株）	当連結会計年度末 株式数（千株）
発行済株式				
普通株式	44,713	—	—	44,713
合計	44,713	—	—	44,713
自己株式				
普通株式（注）1、2	1,115	558	0	1,673
合計	1,115	558	0	1,673

（注）1 自己株式の増加558千株は、取締役会決議に基づく自己株式の取得による増加557千株、単元未満株式の買取りによる増加1千株であります。

2 自己株式の減少0千株は、単元未満株式の買増請求による売渡し等による減少であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり配当 額（円）	基準日	効力発生日
平成21年6月25日 定時株主総会	普通株式	217	5.0	平成21年3月31日	平成21年6月26日
平成21年11月5日 取締役会	普通株式	217	5.0	平成21年9月30日	平成21年12月7日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	配当の原資	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日
平成22年6月25日 定時株主総会	普通株式	215	利益剰余金	5.0	平成22年3月31日	平成22年6月28日

## (連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 現金及び預金勘定 6,935百万円 預入期間が3ヶ月を超える 定期預金 $\Delta$ 12百万円 <hr/> 現金及び現金同等物 6,923百万円	※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 現金及び預金勘定 7,455百万円 預入期間が3ヶ月を超える 定期預金 $\Delta$ 108百万円 <hr/> 現金及び現金同等物 7,346百万円
※2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳 株式の取得により新たに(株)旭電波工業所を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに(株)旭電波工業所株式の取得価額と(株)旭電波工業所取得による支出(純額)との関係は次のとおりであります。 流動資産 100百万円 固定資産 70百万円 のれん 241百万円 流動負債 $\Delta$ 291百万円 固定負債 $\Delta$ 106百万円 <hr/> (株)旭電波工業所株式の取得価額 13百万円  (株)旭電波工業所現金及び現金同等物 8百万円 <hr/> 差引：(株)旭電波工業所取得による支出 $\Delta$ 4百万円	—————

## (リース取引関係)

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)					当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)																																				
所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。					同左																																				
1 リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額					1 リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額																																				
	取得価額 相当額 (百万円)	減価償却 累計額相 当額 (百万円)	減損損失 累計額相 当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)		取得価額 相当額 (百万円)	減価償却 累計額相 当額 (百万円)	減損損失 累計額相 当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)																																
機械装置及び 運搬具	203	110	—	93	機械装置及び 運搬具	182	118	—	64																																
その他	108	56	0	51	その他	98	65	0	31																																
無形固定資産	102	41	—	60	無形固定資産	102	62	—	39																																
合計	414	208	0	205	合計	382	246	0	135																																
<p>なお、取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。</p> <p>2 未経過リース料期末残高相当額等</p> <table> <tr> <td>1年以内</td> <td>68百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td>137百万円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>205百万円</td> </tr> <tr> <td>リース資産減損勘定残高</td> <td>0百万円</td> </tr> </table> <p>なお、未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。</p> <p>3 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失</p> <table> <tr> <td>支払リース料</td> <td>73百万円</td> </tr> <tr> <td>リース資産減損勘定の取崩額</td> <td>0百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td>73百万円</td> </tr> <tr> <td>減損損失</td> <td>0百万円</td> </tr> </table> <p>4 減価償却費相当額の算定方法</p> <p>リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。</p>					1年以内	68百万円	1年超	137百万円	合計	205百万円	リース資産減損勘定残高	0百万円	支払リース料	73百万円	リース資産減損勘定の取崩額	0百万円	減価償却費相当額	73百万円	減損損失	0百万円	<p>同左</p> <p>2 未経過リース料期末残高相当額等</p> <table> <tr> <td>1年以内</td> <td>61百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td>74百万円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>136百万円</td> </tr> <tr> <td>リース資産減損勘定残高</td> <td>0百万円</td> </tr> </table> <p>同左</p> <p>3 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失</p> <table> <tr> <td>支払リース料</td> <td>68百万円</td> </tr> <tr> <td>リース資産減損勘定の取崩額</td> <td>0百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td>67百万円</td> </tr> <tr> <td>減損損失</td> <td>—百万円</td> </tr> </table> <p>4 減価償却費相当額の算定方法</p> <p>同左</p>					1年以内	61百万円	1年超	74百万円	合計	136百万円	リース資産減損勘定残高	0百万円	支払リース料	68百万円	リース資産減損勘定の取崩額	0百万円	減価償却費相当額	67百万円	減損損失	—百万円
1年以内	68百万円																																								
1年超	137百万円																																								
合計	205百万円																																								
リース資産減損勘定残高	0百万円																																								
支払リース料	73百万円																																								
リース資産減損勘定の取崩額	0百万円																																								
減価償却費相当額	73百万円																																								
減損損失	0百万円																																								
1年以内	61百万円																																								
1年超	74百万円																																								
合計	136百万円																																								
リース資産減損勘定残高	0百万円																																								
支払リース料	68百万円																																								
リース資産減損勘定の取崩額	0百万円																																								
減価償却費相当額	67百万円																																								
減損損失	—百万円																																								

(金融商品関係)

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資計画に照らして、設備投資に必要な資金は自己資金及び銀行借入でまかなっております。一時的な余資は安全性及び流動性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金は主に銀行借入により調達しております。デリバティブ取引は、為替変動リスク及び金利変動リスクを回避するために利用することがあり、投機的な取引では一切行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されておりますが、当該リスクに関しては、社内規程に従い、主な取引先の信用調査、取引先別の期日管理及び残高管理を行うことによりリスク軽減を図っております。

有価証券及び投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式及び一時的な余資運用の債券等であり、定期的に時価を把握しております。また、主に関係会社等に対して貸付を行っております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、1年以内の支払期日であります。

短期借入金は主に営業取引に係る運転資金の確保を目的とした資金調達であり、長期借入金は、主に設備投資を目的とした資金調達であります。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした為替予約等、また、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした金利スワップ取引を利用することがあります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社グループでは、社内規程に従い、営業債権及び貸付金について、営業部、営業本部及び管理本部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

満期保有目的の債券は、社内規程に従い、格付の高い債券のみを対象としているため、信用リスクは僅少であります。

デリバティブ取引利用に際しては、カウンターパーティリスクを軽減するため信用力の高い金融機関とのみ取引を行います。

② 市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

当社グループは、輸出取引に係る為替変動リスクに備えるため外貨建の売掛金について為替予約取引を利用することがあります。これは主として外貨建の売上債権をヘッジするためのものであり、外貨建売掛金の範囲内で行うこととしております。また、変動金利支払利息の固定化を目的とする金利スワップ取引を利用することがあります。当該デリバティブ取引に係るリスク管理は、社内規程に基づき管理本部経理部がこれを行っており、取引の基本方針は取締役会に付議の上決定しております。

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握しております。

③ 資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社グループでは、各部署からの報告に基づき担当部署が定期的に資金繰計画を作成・更新するとともに、流動性を一定水準に維持するなどにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。



## 2. 金融商品の時価等に関する事項

平成22年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（注）2参照）。

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	7,455	7,455	—
(2) 受取手形及び売掛金	10,675	10,675	—
(3) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	400	406	5
その他有価証券	5,825	5,825	—
資産計	24,356	24,361	5
(1) 支払手形及び買掛金	4,130	4,130	—
(2) 短期借入金	2,520	2,520	—
負債計	6,650	6,650	—

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

### 資 産

#### (1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

#### (3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっており、債券等は取引金融機関等から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

### 負 債

#### (1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

2 非上場株式（連結貸借対照表計上額709百万円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

3 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	7,455	—	—	—
受取手形及び売掛金	10,675	—	—	—
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
社債	100	—	300	—
其他有価証券のうち満期 があるもの				
其他	500	100	—	—
合計	18,731	100	300	—

(追加情報)

当連結会計年度より、「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 平成20年3月10日）及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日）を適用しております。

(有価証券関係)  
前連結会計年度

1 満期保有目的の債券で時価のあるもの(平成21年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	—	—	—
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの			
① 国債・地方債等	—	—	—
② 社債	100	99	△0
③ その他	—	—	—
小計	100	99	△0
合計	100	99	△0

2 その他有価証券で時価のあるもの(平成21年3月31日)

区分	取得原価(百万円)	連結貸借対照表計上額 (百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
① 株式	697	1,246	549
② 債券(社債)	—	—	—
③ その他	—	—	—
小計	697	1,246	549
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
① 株式	3,754	2,875	△878
② 債券(社債)	200	198	△1
③ その他	51	47	△3
小計	4,005	3,121	△884
合計	4,702	4,367	△335

(注) 1 当連結会計年度において、その他有価証券で時価のある株式について841百万円減損処理を行っております。

2 当社グループにおける株式の減損処理の方針は、次のとおりであります。

下落率が50%以上の場合は、すべての株式を減損処理の対象とし、時価と簿価の差額について評価損を計上することとしております。

下落率が30%以上50%未満の場合は、個別に回復可能性を検証したうえで回復可能性があるものを除く株式について減損処理の対象とし、時価と簿価の差額について評価損を計上することとしております。

具体的には、次の①から③のうち、いずれかに該当する場合は減損処理の対象としております。

①時価が過去2年間にわたり著しく下落した状態にある。

②債務超過の状態である。

③2期連続で経常損失を計上しており、翌期もそのように予想される。

3 当連結会計年度中に売却したその他有価証券（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）

売却額（百万円）	売却益の合計額（百万円）	売却損の合計額（百万円）
289	136	73

4 時価評価されていない有価証券（平成21年3月31日）

その他有価証券

内容	連結貸借対照表計上額（百万円）
非上場株式	717

5 その他有価証券のうち満期があるもの及び満期保有目的の債券の今後の償還予定額  
（平成21年3月31日）

区分	1年以内 （百万円）	1年超5年以内 （百万円）	5年超10年以内 （百万円）	10年超 （百万円）
債券				
① 国債・地方債等	—	—	—	—
② 社債	—	99	198	—
③ その他	—	—	—	—
合計	—	99	198	—

当連結会計年度

1 満期保有目的の債券（平成22年3月31日）

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの			
① 国債・地方債等	—	—	—
② 債券(社債)	300	305	5
③ その他	—	—	—
小計	300	305	5
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの			
① 国債・地方債等	—	—	—
② 社債	100	100	△0
③ その他	—	—	—
小計	100	100	△0
合計	400	406	5

2 その他有価証券（平成22年3月31日）

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
① 株式	2,875	1,714	1,160
② 債券(社債)	100	100	0
③ その他	—	—	—
小計	2,975	1,814	1,161
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
① 株式	2,302	2,803	△501
② 債券(社債)	—	—	—
③ その他	548	551	△3
小計	2,850	3,354	△504
合計	5,825	5,169	656

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額709百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	209	106	—

#### 4 減損処理を行った有価証券

当連結会計年度において、投資有価証券について3百万円（その他有価証券の株式3百万円）減損処理を行っております。

なお、当社グループにおける株式の減損処理の方針は、次のとおりであります。

下落率が50%以上の場合、すべての株式を減損処理の対象とし、時価と簿価の差額について評価損を計上することとしております。

下落率が30%以上50%未満の場合は、個別に回復可能性を検証したうえで回復可能性があるものを除く株式について減損処理の対象とし、時価と簿価の差額について評価損を計上することとしております。

具体的には、次の①から③のうち、いずれかに該当する場合は減損処理の対象としております。

- ①時価が過去2年間にわたり著しく下落した状態にある。
- ②債務超過の状態である。
- ③2期連続で経常損失を計上しており、翌期もそのように予想される。

(デリバティブ取引関係)

1 取引の状況に関する事項

前連結会計年度  
(自 平成20年4月1日  
至 平成21年3月31日)

(1) 取引の内容、利用目的及び取組方針等

(通貨関連)

当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）は、輸出取引に係る為替変動リスクに備えるため外貨建の売上金について為替予約取引を利用することがあります。これは主として外貨建の売上債権をヘッジするためのものであり、外貨建売掛金の範囲内で行うこととしております。

従って、通貨関連の取引は、為替相場の変動リスク回避のためであり、投機的な目的では一切行わない方針であります。

(金利関連)

当社グループが利用しているデリバティブ取引は変動金利支払利息の固定化を目的とする金利スワップ取引であり、これは実需に基づく取引だけに限定しており、投機的な目的では、一切行わない方針であります。

なお、ヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針及びヘッジ有効性評価の方法については、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4 会計処理基準に関する事項に記載しているため省略しております。

(2) 取引に係るリスクの内容

取引の契約先を信用度の高い銀行としているため、相手方の契約不履行によるリスクは、ほとんどないと認識しております。

(3) 取引に係るリスクの管理体制

デリバティブ取引の実行及び管理は、当社企画管理部で行っており、取引についての基本方針は取締役会に付議の上決定しております。

2 取引の時価等に関する事項

前連結会計年度  
(自 平成20年4月1日  
至 平成21年3月31日)

期末残高が無いため、該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

該当事項はありません。

## (退職給付関係)

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)																																																																
<p>1 採用している退職給付制度の概要</p> <p>当社は、確定給付型年金制度（適格退職年金制度及び退職一時金制度）と確定拠出型年金制度を併用しております。また、当社は退職給付信託を設定し、国内連結子会社は退職一時金制度を設けております。なお、連結子会社については簡便法を用いております。</p> <p>2 退職給付債務に関する事項（平成21年3月31日）</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">① 退職給付債務</td> <td style="text-align: right;">△2,422百万円</td> </tr> <tr> <td>② 年金資産</td> <td style="text-align: right;">1,561百万円</td> </tr> <tr> <td>③ 未積立退職給付債務（①+②）</td> <td style="text-align: right;">△861百万円</td> </tr> <tr> <td>④ 未認識数理計算上の差異</td> <td style="text-align: right;">772百万円</td> </tr> <tr> <td>⑤ 連結貸借対照表計上純額（③+④）</td> <td style="text-align: right;">△88百万円</td> </tr> <tr> <td>⑥ 前払退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">-百万円</td> </tr> <tr> <td>⑦ 退職給付引当金（⑤-⑥）</td> <td style="text-align: right;">△88百万円</td> </tr> </table> <p>(注) 上記①退職給付債務には、退職等に際して、退職給付債務に準拠した数理計算による退職給付債務の対象とされていない加給金を含んでおります。</p> <p>3 退職給付費用に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">① 勤務費用</td> <td style="text-align: right;">122百万円</td> </tr> <tr> <td>② 利息費用</td> <td style="text-align: right;">54百万円</td> </tr> <tr> <td>③ 期待運用収益</td> <td style="text-align: right;">△54百万円</td> </tr> <tr> <td>④ 数理計算上の差異の費用処理額</td> <td style="text-align: right;">39百万円</td> </tr> <tr> <td>⑤ 退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">161百万円</td> </tr> </table> <p>(注) 1 上記①勤務費用には、加給金に係わる退職給付費用を含んでおります。</p> <p>2 簡便法を用いている連結子会社の退職給付費用は上記①の勤務費用に計上しております。</p> <p>4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">① 退職給付見込額の期間配分方法</td> <td style="text-align: right;">期間定額基準</td> </tr> <tr> <td>② 割引率</td> <td style="text-align: right;">2.50%</td> </tr> <tr> <td>③ 期待運用収益率</td> <td style="text-align: right;">2.50%</td> </tr> <tr> <td>④ 数理計算上の差異の処理年数</td> <td style="text-align: right;">10年（各発生年度のそれぞれ翌連結会計年度から定額法により費用処理しております。）</td> </tr> </table>	① 退職給付債務	△2,422百万円	② 年金資産	1,561百万円	③ 未積立退職給付債務（①+②）	△861百万円	④ 未認識数理計算上の差異	772百万円	⑤ 連結貸借対照表計上純額（③+④）	△88百万円	⑥ 前払退職給付費用	-百万円	⑦ 退職給付引当金（⑤-⑥）	△88百万円	① 勤務費用	122百万円	② 利息費用	54百万円	③ 期待運用収益	△54百万円	④ 数理計算上の差異の費用処理額	39百万円	⑤ 退職給付費用	161百万円	① 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	② 割引率	2.50%	③ 期待運用収益率	2.50%	④ 数理計算上の差異の処理年数	10年（各発生年度のそれぞれ翌連結会計年度から定額法により費用処理しております。）	<p>1 採用している退職給付制度の概要</p> <p>当社は、確定給付型年金制度（適格退職年金制度及び退職一時金制度）と確定拠出型年金制度を併用しております。また、当社は退職給付信託を設定しております。国内連結子会社は退職一時金制度を設けており、退職給付債務等の計算については簡便法を用いております。なお、当社は平成22年4月1日から適格退職年金制度を確定給付企業年金制度へ移行いたしました。</p> <p>2 退職給付債務に関する事項（平成22年3月31日）</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">① 退職給付債務</td> <td style="text-align: right;">△2,448百万円</td> </tr> <tr> <td>② 年金資産</td> <td style="text-align: right;">1,680百万円</td> </tr> <tr> <td>③ 未積立退職給付債務（①+②）</td> <td style="text-align: right;">△768百万円</td> </tr> <tr> <td>④ 未認識数理計算上の差異</td> <td style="text-align: right;">653百万円</td> </tr> <tr> <td>⑤ 連結貸借対照表計上純額（③+④）</td> <td style="text-align: right;">△114百万円</td> </tr> <tr> <td>⑥ 前払退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">2百万円</td> </tr> <tr> <td>⑦ 退職給付引当金（⑤-⑥）</td> <td style="text-align: right;">△116百万円</td> </tr> </table> <p>(注) 同左</p> <p>3 退職給付費用に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">① 勤務費用</td> <td style="text-align: right;">165百万円</td> </tr> <tr> <td>② 利息費用</td> <td style="text-align: right;">49百万円</td> </tr> <tr> <td>③ 期待運用収益</td> <td style="text-align: right;">△33百万円</td> </tr> <tr> <td>④ 数理計算上の差異の費用処理額</td> <td style="text-align: right;">116百万円</td> </tr> <tr> <td>⑤ 退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">297百万円</td> </tr> </table> <p>(注) 1 同左</p> <p>2 同左</p> <p>4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">① 退職給付見込額の期間配分方法</td> <td style="text-align: right;">同左</td> </tr> <tr> <td>② 割引率</td> <td style="text-align: right;">1.90%</td> </tr> <tr> <td>③ 期待運用収益率</td> <td style="text-align: right;">2.50%</td> </tr> <tr> <td>④ 数理計算上の差異の処理年数</td> <td style="text-align: right;">同左</td> </tr> </table>	① 退職給付債務	△2,448百万円	② 年金資産	1,680百万円	③ 未積立退職給付債務（①+②）	△768百万円	④ 未認識数理計算上の差異	653百万円	⑤ 連結貸借対照表計上純額（③+④）	△114百万円	⑥ 前払退職給付費用	2百万円	⑦ 退職給付引当金（⑤-⑥）	△116百万円	① 勤務費用	165百万円	② 利息費用	49百万円	③ 期待運用収益	△33百万円	④ 数理計算上の差異の費用処理額	116百万円	⑤ 退職給付費用	297百万円	① 退職給付見込額の期間配分方法	同左	② 割引率	1.90%	③ 期待運用収益率	2.50%	④ 数理計算上の差異の処理年数	同左
① 退職給付債務	△2,422百万円																																																																
② 年金資産	1,561百万円																																																																
③ 未積立退職給付債務（①+②）	△861百万円																																																																
④ 未認識数理計算上の差異	772百万円																																																																
⑤ 連結貸借対照表計上純額（③+④）	△88百万円																																																																
⑥ 前払退職給付費用	-百万円																																																																
⑦ 退職給付引当金（⑤-⑥）	△88百万円																																																																
① 勤務費用	122百万円																																																																
② 利息費用	54百万円																																																																
③ 期待運用収益	△54百万円																																																																
④ 数理計算上の差異の費用処理額	39百万円																																																																
⑤ 退職給付費用	161百万円																																																																
① 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準																																																																
② 割引率	2.50%																																																																
③ 期待運用収益率	2.50%																																																																
④ 数理計算上の差異の処理年数	10年（各発生年度のそれぞれ翌連結会計年度から定額法により費用処理しております。）																																																																
① 退職給付債務	△2,448百万円																																																																
② 年金資産	1,680百万円																																																																
③ 未積立退職給付債務（①+②）	△768百万円																																																																
④ 未認識数理計算上の差異	653百万円																																																																
⑤ 連結貸借対照表計上純額（③+④）	△114百万円																																																																
⑥ 前払退職給付費用	2百万円																																																																
⑦ 退職給付引当金（⑤-⑥）	△116百万円																																																																
① 勤務費用	165百万円																																																																
② 利息費用	49百万円																																																																
③ 期待運用収益	△33百万円																																																																
④ 数理計算上の差異の費用処理額	116百万円																																																																
⑤ 退職給付費用	297百万円																																																																
① 退職給付見込額の期間配分方法	同左																																																																
② 割引率	1.90%																																																																
③ 期待運用収益率	2.50%																																																																
④ 数理計算上の差異の処理年数	同左																																																																

## (ストック・オプション等関係)

前連結会計年度（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）及び当連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

該当事項はありません。



## (税効果会計関係)

前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)																																																																																																										
<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>たな卸資産</td><td style="text-align: right;">32百万円</td></tr> <tr><td>有形固定資産</td><td style="text-align: right;">47百万円</td></tr> <tr><td>無形固定資産</td><td style="text-align: right;">55百万円</td></tr> <tr><td>投資有価証券</td><td style="text-align: right;">89百万円</td></tr> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">120百万円</td></tr> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">18百万円</td></tr> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">206百万円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">243百万円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">33百万円</td></tr> <tr><td>P C B 処理関連損失</td><td style="text-align: right;">80百万円</td></tr> <tr><td>減損損失</td><td style="text-align: right;">584百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">106百万円</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right;">1,619百万円</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">△368百万円</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right;">1,250百万円</td></tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>連結子会社等の留保利益</td><td style="text-align: right;">△23百万円</td></tr> <tr><td>特定資産買い換え</td><td style="text-align: right;">△516百万円</td></tr> <tr><td>特別償却準備金</td><td style="text-align: right;">△25百万円</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">△215百万円</td></tr> <tr><td>退職給付信託設定益</td><td style="text-align: right;">△90百万円</td></tr> <tr><td>未収還付事業税</td><td style="text-align: right;">△49百万円</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right;">△920百万円</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金資産の純額</td><td style="text-align: right;">330百万円</td></tr> </table>	たな卸資産	32百万円	有形固定資産	47百万円	無形固定資産	55百万円	投資有価証券	89百万円	貸倒引当金	120百万円	未払事業税	18百万円	賞与引当金	206百万円	退職給付引当金	243百万円	役員退職慰労引当金	33百万円	P C B 処理関連損失	80百万円	減損損失	584百万円	その他	106百万円	<hr/>		繰延税金資産小計	1,619百万円	評価性引当額	△368百万円	<hr/>		繰延税金資産合計	1,250百万円	連結子会社等の留保利益	△23百万円	特定資産買い換え	△516百万円	特別償却準備金	△25百万円	その他有価証券評価差額金	△215百万円	退職給付信託設定益	△90百万円	未収還付事業税	△49百万円	<hr/>		繰延税金負債合計	△920百万円	<hr/>		繰延税金資産の純額	330百万円	<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>たな卸資産</td><td style="text-align: right;">35百万円</td></tr> <tr><td>有形固定資産</td><td style="text-align: right;">51百万円</td></tr> <tr><td>無形固定資産</td><td style="text-align: right;">27百万円</td></tr> <tr><td>投資有価証券</td><td style="text-align: right;">89百万円</td></tr> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">55百万円</td></tr> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">45百万円</td></tr> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">178百万円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">274百万円</td></tr> <tr><td>役員退職金未払金</td><td style="text-align: right;">32百万円</td></tr> <tr><td>P C B 処理関連損失</td><td style="text-align: right;">80百万円</td></tr> <tr><td>減損損失</td><td style="text-align: right;">549百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">62百万円</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right;">1,482百万円</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">△544百万円</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right;">937百万円</td></tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>連結子会社等の留保利益</td><td style="text-align: right;">△86百万円</td></tr> <tr><td>特定資産買い換え</td><td style="text-align: right;">△507百万円</td></tr> <tr><td>特別償却準備金</td><td style="text-align: right;">△17百万円</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">△457百万円</td></tr> <tr><td>退職給付信託設定益</td><td style="text-align: right;">△90百万円</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right;">△1,159百万円</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>繰延税金資産（負債）の純額</td><td style="text-align: right;">△222百万円</td></tr> </table>	たな卸資産	35百万円	有形固定資産	51百万円	無形固定資産	27百万円	投資有価証券	89百万円	貸倒引当金	55百万円	未払事業税	45百万円	賞与引当金	178百万円	退職給付引当金	274百万円	役員退職金未払金	32百万円	P C B 処理関連損失	80百万円	減損損失	549百万円	その他	62百万円	<hr/>		繰延税金資産小計	1,482百万円	評価性引当額	△544百万円	<hr/>		繰延税金資産合計	937百万円	連結子会社等の留保利益	△86百万円	特定資産買い換え	△507百万円	特別償却準備金	△17百万円	その他有価証券評価差額金	△457百万円	退職給付信託設定益	△90百万円	<hr/>		繰延税金負債合計	△1,159百万円	<hr/>		繰延税金資産（負債）の純額	△222百万円
たな卸資産	32百万円																																																																																																										
有形固定資産	47百万円																																																																																																										
無形固定資産	55百万円																																																																																																										
投資有価証券	89百万円																																																																																																										
貸倒引当金	120百万円																																																																																																										
未払事業税	18百万円																																																																																																										
賞与引当金	206百万円																																																																																																										
退職給付引当金	243百万円																																																																																																										
役員退職慰労引当金	33百万円																																																																																																										
P C B 処理関連損失	80百万円																																																																																																										
減損損失	584百万円																																																																																																										
その他	106百万円																																																																																																										
<hr/>																																																																																																											
繰延税金資産小計	1,619百万円																																																																																																										
評価性引当額	△368百万円																																																																																																										
<hr/>																																																																																																											
繰延税金資産合計	1,250百万円																																																																																																										
連結子会社等の留保利益	△23百万円																																																																																																										
特定資産買い換え	△516百万円																																																																																																										
特別償却準備金	△25百万円																																																																																																										
その他有価証券評価差額金	△215百万円																																																																																																										
退職給付信託設定益	△90百万円																																																																																																										
未収還付事業税	△49百万円																																																																																																										
<hr/>																																																																																																											
繰延税金負債合計	△920百万円																																																																																																										
<hr/>																																																																																																											
繰延税金資産の純額	330百万円																																																																																																										
たな卸資産	35百万円																																																																																																										
有形固定資産	51百万円																																																																																																										
無形固定資産	27百万円																																																																																																										
投資有価証券	89百万円																																																																																																										
貸倒引当金	55百万円																																																																																																										
未払事業税	45百万円																																																																																																										
賞与引当金	178百万円																																																																																																										
退職給付引当金	274百万円																																																																																																										
役員退職金未払金	32百万円																																																																																																										
P C B 処理関連損失	80百万円																																																																																																										
減損損失	549百万円																																																																																																										
その他	62百万円																																																																																																										
<hr/>																																																																																																											
繰延税金資産小計	1,482百万円																																																																																																										
評価性引当額	△544百万円																																																																																																										
<hr/>																																																																																																											
繰延税金資産合計	937百万円																																																																																																										
連結子会社等の留保利益	△86百万円																																																																																																										
特定資産買い換え	△507百万円																																																																																																										
特別償却準備金	△17百万円																																																																																																										
その他有価証券評価差額金	△457百万円																																																																																																										
退職給付信託設定益	△90百万円																																																																																																										
<hr/>																																																																																																											
繰延税金負債合計	△1,159百万円																																																																																																										
<hr/>																																																																																																											
繰延税金資産（負債）の純額	△222百万円																																																																																																										
<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>国内の法定実効税率 (調整)</td><td style="text-align: right;">39.7%</td></tr> <tr><td>交際費等損金不算入項目</td><td style="text-align: right;">1.5%</td></tr> <tr><td>受取配当金等益金不算入項目</td><td style="text-align: right;">△8.1%</td></tr> <tr><td>持分法による投資利益</td><td style="text-align: right;">△2.8%</td></tr> <tr><td>連結子会社からの配当金等</td><td style="text-align: right;">5.1%</td></tr> <tr><td>評価性引当額の増減額</td><td style="text-align: right;">△6.1%</td></tr> <tr><td>住民税均等割</td><td style="text-align: right;">2.3%</td></tr> <tr><td>海外子会社等の留保利益取崩額</td><td style="text-align: right;">△31.9%</td></tr> <tr><td>移転補償金</td><td style="text-align: right;">△11.6%</td></tr> <tr><td>過年度法人税等</td><td style="text-align: right;">3.5%</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">1.2%</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right;">△7.2%</td></tr> </table>	国内の法定実効税率 (調整)	39.7%	交際費等損金不算入項目	1.5%	受取配当金等益金不算入項目	△8.1%	持分法による投資利益	△2.8%	連結子会社からの配当金等	5.1%	評価性引当額の増減額	△6.1%	住民税均等割	2.3%	海外子会社等の留保利益取崩額	△31.9%	移転補償金	△11.6%	過年度法人税等	3.5%	その他	1.2%	<hr/>		税効果会計適用後の法人税等の負担率	△7.2%	<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>国内の法定実効税率 (調整)</td><td style="text-align: right;">39.7%</td></tr> <tr><td>交際費等損金不算入項目</td><td style="text-align: right;">1.4%</td></tr> <tr><td>受取配当金等益金不算入項目</td><td style="text-align: right;">△3.9%</td></tr> <tr><td>持分法による投資利益</td><td style="text-align: right;">△1.2%</td></tr> <tr><td>連結子会社からの配当金等</td><td style="text-align: right;">2.3%</td></tr> <tr><td>評価性引当額の増減額</td><td style="text-align: right;">16.7%</td></tr> <tr><td>住民税均等割</td><td style="text-align: right;">3.6%</td></tr> <tr><td>海外子会社等の留保利益増加額</td><td style="text-align: right;">6.0%</td></tr> <tr><td>のれんの償却及び減損</td><td style="text-align: right;">8.1%</td></tr> <tr><td>連結子会社の欠損金</td><td style="text-align: right;">17.1%</td></tr> <tr><td>海外子会社の税率差異</td><td style="text-align: right;">△3.1%</td></tr> <tr><td>税額控除</td><td style="text-align: right;">△4.1%</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">△0.7%</td></tr> <tr><td colspan="2"><hr/></td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right;">81.9%</td></tr> </table>	国内の法定実効税率 (調整)	39.7%	交際費等損金不算入項目	1.4%	受取配当金等益金不算入項目	△3.9%	持分法による投資利益	△1.2%	連結子会社からの配当金等	2.3%	評価性引当額の増減額	16.7%	住民税均等割	3.6%	海外子会社等の留保利益増加額	6.0%	のれんの償却及び減損	8.1%	連結子会社の欠損金	17.1%	海外子会社の税率差異	△3.1%	税額控除	△4.1%	その他	△0.7%	<hr/>		税効果会計適用後の法人税等の負担率	81.9%																																																		
国内の法定実効税率 (調整)	39.7%																																																																																																										
交際費等損金不算入項目	1.5%																																																																																																										
受取配当金等益金不算入項目	△8.1%																																																																																																										
持分法による投資利益	△2.8%																																																																																																										
連結子会社からの配当金等	5.1%																																																																																																										
評価性引当額の増減額	△6.1%																																																																																																										
住民税均等割	2.3%																																																																																																										
海外子会社等の留保利益取崩額	△31.9%																																																																																																										
移転補償金	△11.6%																																																																																																										
過年度法人税等	3.5%																																																																																																										
その他	1.2%																																																																																																										
<hr/>																																																																																																											
税効果会計適用後の法人税等の負担率	△7.2%																																																																																																										
国内の法定実効税率 (調整)	39.7%																																																																																																										
交際費等損金不算入項目	1.4%																																																																																																										
受取配当金等益金不算入項目	△3.9%																																																																																																										
持分法による投資利益	△1.2%																																																																																																										
連結子会社からの配当金等	2.3%																																																																																																										
評価性引当額の増減額	16.7%																																																																																																										
住民税均等割	3.6%																																																																																																										
海外子会社等の留保利益増加額	6.0%																																																																																																										
のれんの償却及び減損	8.1%																																																																																																										
連結子会社の欠損金	17.1%																																																																																																										
海外子会社の税率差異	△3.1%																																																																																																										
税額控除	△4.1%																																																																																																										
その他	△0.7%																																																																																																										
<hr/>																																																																																																											
税効果会計適用後の法人税等の負担率	81.9%																																																																																																										

(賃貸等不動産関係)

当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

当社では、主として東京都に賃貸収益を得ることを目的として賃貸オフィスビル(土地を含む。)を所有しております。

これら賃貸等不動産に関する連結貸借対照表計上額、当連結会計年度増減額及び時価は、次のとおりであります。

	連結貸借対照表計上額 (百万円)			当連結会計年度末の時価 (百万円)
	前連結会計年度末残高	当連結会計年度増減額	当連結会計年度末残高	
オフィスビル	2,355	△1,048	1,307	2,100
大阪工場跡地	342	147	490	490

(注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

2 賃貸等不動産の当連結会計年度増減額のうち、主な増加額は大阪工場跡地売却に伴う土壌改良工事費用等(182百万円)であり、主な減少額はオフィスビル一部売却(986百万円)であります。なお、大阪工場跡地は、当連結会計年度中に尼崎工場への集約合理化が終了したため遊休資産となったものであります。

3 当連結会計年度末の時価は、以下によっております。

(1) オフィスビルについては、平成22年3月31日に一部売却しており、その売却額を基礎として自社で算定した金額であります。

(2) 大阪工場跡地については、売却予定額を基礎として自社で算定した金額であります。

また、賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する平成22年3月期における損益は、次のとおりであります。

	賃貸収益 (百万円)	賃貸費用 (百万円)	差額 (百万円)	その他(売却損益等) (百万円)
オフィスビル	475	380	94	629
大阪工場跡地	—	4	△4	△34

(注) 1 オフィスビルには、不動産の賃貸に付随する不動産以外の資産(機械装置、工具器具備品等)が含まれております。これらを区分して損益を算定することは困難なため、上記には不動産以外に係る損益も含まれております。

2 その他(売却損益等)の内訳は、以下のとおりであります。

オフィスビルの629百万円は、所有フロアの一部売却によるものであります。

大阪工場跡地の△34百万円は、当連結会計年度末における帳簿価額と売却予定額との差額を減損損失として計上したものであります。

(追加情報)

当連結会計年度より、「賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第20号 平成20年11月28日)及び「賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第23号 平成20年11月28日)を適用しております。

## (セグメント情報)

## 【事業の種類別セグメント情報】

前連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

	製品事業部 関連事業 (百万円)	加工・電機 関連事業 (百万円)	賃貸事業他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社 (百万円)	連結 (百万円)
I 売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	21,068	19,249	528	40,846	—	40,846
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	5	299	304	(304)	—
計	21,068	19,255	827	41,151	(304)	40,846
営業費用	19,249	17,886	507	37,643	(304)	37,339
営業利益	1,818	1,368	320	3,507	—	3,507
II 資産、減価償却費、減損損失 及び資本的支出						
資産	16,290	28,041	3,661	47,993	12,928	60,921
減価償却費	898	1,986	211	3,096	55	3,151
減損損失	—	1,543	—	1,543	—	1,543
資本的支出	740	3,620	0	4,361	20	4,382

(注) 1 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

## 2 各事業の主な製品

- (1) 製品事業部関連事業……P C 鋼棒・異形 P C 鋼棒・せん断補強筋・高強度ばね鋼線  
(2) 加工・電機関連事業……熱処理受託加工・誘導加熱装置・自動車部品等  
(3) 賃貸事業他……動産ならびに不動産に係る賃貸事業及び上記以外の事業

## 3 資産のうち消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額は12,928百万円であり、その主なものは、親会社の現金及び預金、長期投資資金(投資有価証券)及び管理部門に係る資産等であります。

## 4 当連結会計年度において、加工・電機関連事業において減損損失を計上したことに伴い、同セグメントの減価償却費は71百万円減少しております。

## 5 会計方針の変更

(棚卸資産の評価に関する会計基準)

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更」に記載のとおり、当連結会計年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日公表分)を適用しております。この変更に伴う事業の種類別セグメントの営業利益に与える影響は以下のとおりです。

- (1) 製品事業部関連事業……△34百万円  
(2) 加工・電機関連事業……△36百万円  
(3) 賃貸事業他……△0百万円

## 6 追加情報

当社の機械装置については、従来、耐用年数を4～13年としておりましたが、当連結会計年度より4～10年としております。これは、法人税法上の法定耐用年数の見直しを踏まえ耐用年数を見直したことによるものであります。これに伴う事業の種類別セグメントの営業利益に与える影響は以下のとおりです。

- (1) 製品事業部関連事業……△32百万円  
(2) 加工・電機関連事業……△75百万円  
(3) 賃貸事業他……△0百万円

当連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

	製品事業部 関連事業 (百万円)	加工・電機 関連事業 (百万円)	賃貸事業他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社 (百万円)	連結 (百万円)
I 売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	16,663	13,265	493	30,423	—	30,423
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	20	281	301	(301)	—
計	16,663	13,286	775	30,724	(301)	30,423
営業費用	15,866	14,217	404	30,487	(301)	30,186
営業利益（又は営業損失）	797	△931	370	236	—	236
II 資産、減価償却費、減損損失 及び資本的支出						
資産	15,029	26,729	3,447	45,206	15,640	60,846
減価償却費	858	1,969	177	3,005	39	3,044
減損損失	—	120	34	154	—	154
資本的支出	1,227	1,598	182	3,009	4	3,013

(注) 1 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各事業の主な製品

- (1) 製品事業部関連事業……P C鋼棒・異形P C鋼棒・せん断補強筋・高強度ばね鋼線
- (2) 加工・電機関連事業……熱処理受託加工・誘導加熱装置・自動車部品等・建設機械部品等
- (3) 賃貸事業他……動産ならびに不動産に係る賃貸事業及び上記以外の事業

3 資産のうち消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額は15,640百万円であり、その主なものは、親会社の現金及び預金、長期投資資金（投資有価証券）及び管理部門に係る資産等であります。

【所在地別セグメント情報】

前連結会計年度（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）

	日本 (百万円)	アジア (百万円)	北米 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社 (百万円)	連結 (百万円)
I 売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	38,748	1,999	99	40,846	—	40,846
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	297	3	—	300	(300)	—
計	39,045	2,002	99	41,147	(300)	40,846
営業費用	35,657	1,673	308	37,639	(300)	37,339
営業利益（又は営業損失）	3,387	329	△209	3,507	—	3,507
II 資産	41,837	4,217	1,938	47,993	12,928	60,921

(注) 1 国または地域は地理的近接度により区分しております。

2 本邦以外の区分に属する国又は地域の内訳は次のとおりであります。

(1) アジア……中国

(2) 北米……米国

3 資産のうち消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額は12,928百万円であり、その主なものは、親会社の現金及び預金、長期投資資金（投資有価証券）及び管理部門に係る資産等であります。

4 当連結会計年度において、「日本」において減損損失を計上したことに伴い、同セグメントの減価償却費は71百万円減少しております。

5 会計方針の変更

（棚卸資産の評価に関する会計基準）

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更」に記載のとおり、当連結会計年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日公表分）を適用しております。この変更に伴う所在地別セグメントの営業利益に与える影響は以下のとおりです。

(1) 日本……△41百万円

(2) アジア……—百万円

(3) 北米……△30百万円

6 追加情報

当社の機械装置については、従来、耐用年数を4～13年としておりましたが、当連結会計年度より4～10年としております。これは、法人税法上の法定耐用年数の見直しを踏まえ耐用年数を見直したことによるものであります。これに伴う所在地別セグメントの営業利益に与える影響は以下のとおりです。

(1) 日本……△107百万円

(2) アジア……—百万円

(3) 北米……—百万円

当連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

	日本 (百万円)	アジア (百万円)	北米 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社 (百万円)	連結 (百万円)
I 売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	27,611	2,495	316	30,423	—	30,423
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	385	—	—	385	(385)	—
計	27,996	2,495	316	30,808	(385)	30,423
営業費用	27,649	2,367	554	30,571	(385)	30,186
営業利益（又は営業損失）	347	127	△238	236	—	236
II 資産	38,086	5,016	2,103	45,206	15,640	60,846

- (注) 1 国または地域は地理的近接度により区分しております。  
 2 本邦以外の区分に属する国又は地域の内訳は次のとおりであります。  
 (1) アジア……中国  
 (2) 北米……米国  
 3 資産のうち消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額は15,640百万円であり、その主なものは、親会社の現金及び預金、長期投資資金（投資有価証券）及び管理部門に係る資産等であります。

【海外売上高】

前連結会計年度（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）

海外売上高が、連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

当連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

	アジア	北米	その他	計
I 海外売上高（百万円）	2,865	345	20	3,231
II 連結売上高（百万円）				30,423
III 連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	9.4	1.1	0.1	10.6

- (注) 1 国または地域は、地理的近接度により区分しております。  
 2 各区分に属する主な国又は地域の内訳は次のとおりであります。  
 (1) アジア……中国  
 (2) 北米……米国  
 (3) その他……スウェーデン、イタリア

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）

該当事項はありません。

(追加情報)

当連結会計年度より、「関連当事者の開示に関する会計基準」（企業会計基準第11号 平成18年10月17日）及び「関連当事者の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第13号 平成18年10月17日）を適用しております。

なお、これによる開示対象範囲の変更はありません。

当連結会計年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	
1株当たり純資産額	1,047.23円	1株当たり純資産額	1,070.89円
1株当たり当期純利益金額	30.85円	1株当たり当期純利益金額	7.47円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(百万円)	1,353	324
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(百万円)	1,353	324
普通株式の期中平均株式数(株)	43,886,835	43,469,402

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## ⑤【連結附属明細表】

## 【社債明細表】

該当事項はありません。

## 【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,705	1,878	2.8	—
1年以内に返済予定の長期借入金	596	641	1.6	—
1年以内に返済予定のリース債務	13	17	—	—
長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く。）	1,660	1,203	1.7	平成23年～平成26年
リース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）	55	53	—	平成23年～平成28年
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	4,031	3,795	—	—

(注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 リース債務の「平均利率」については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3 長期借入金及びリース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）の連結決算日後5年間における返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	634	419	127	22
リース債務	17	15	11	8

## (2) 【その他】

## 当連結会計年度における四半期情報

	第1四半期 自平成21年4月1日 至平成21年6月30日	第2四半期 自平成21年7月1日 至平成21年9月30日	第3四半期 自平成21年10月1日 至平成21年12月31日	第4四半期 自平成22年1月1日 至平成22年3月31日
売上高(百万円)	6,666	7,302	7,362	9,092
税金等調整前四半期純利益金額又は税金等調整前四半期純損失金額(△)(百万円)	△163	△263	470	1,009
四半期純利益金額又は四半期純損失金額(△)(百万円)	△177	△88	276	314
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額(△)(円)	△4.07	△2.04	6.34	7.29



2 【財務諸表等】  
 (1) 【財務諸表】  
 ① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,059	5,548
受取手形	1,408	1,142
売掛金	7,926	7,650
リース投資資産	49	41
有価証券	—	600
商品及び製品	363	295
仕掛品	828	705
原材料及び貯蔵品	681	654
前払費用	58	61
繰延税金資産	408	375
短期貸付金	※4 936	379
未収入金	1,337	1,856
その他	9	10
貸倒引当金	△34	△30
流動資産合計	19,036	19,292
固定資産		
有形固定資産		
建物	12,128	12,076
減価償却累計額	△6,287	△6,349
建物（純額）	5,841	5,726
構築物	1,556	1,815
減価償却累計額	△1,074	△1,184
構築物（純額）	482	630
機械及び装置	※2 31,389	※2 32,515
減価償却累計額	△24,084	△25,493
機械及び装置（純額）	7,304	7,022
車両運搬具	157	157
減価償却累計額	△138	△141
車両運搬具（純額）	18	15
工具、器具及び備品	1,879	1,937
減価償却累計額	△1,674	△1,766
工具、器具及び備品（純額）	204	171
土地	※1 9,732	※1 9,396
リース資産	17	34
減価償却累計額	△2	△9
リース資産（純額）	15	25
建設仮勘定	1,538	318
有形固定資産合計	25,138	23,307
無形固定資産		
特許権	17	15
水道施設利用権	1	2
電話加入権	0	0
無形固定資産合計	19	17

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	5,080	6,153
関係会社株式	3,240	3,289
出資金	5	5
長期貸付金	225	81
従業員に対する長期貸付金	1	6
関係会社長期貸付金	114	292
破産更生債権等	100	237
長期前払費用	10	9
差入保証金	159	158
その他	38	37
貸倒引当金	△321	△441
投資その他の資産合計	8,655	9,831
固定資産合計	33,813	33,156
資産合計	52,850	52,448
負債の部		
流動負債		
支払手形	270	200
買掛金	4,451	※4 3,932
短期借入金	※4 1,995	※4 1,478
1年内返済予定の長期借入金	576	577
リース債務	12	15
未払金	922	1,112
未払費用	756	753
未払法人税等	29	462
未払消費税等	90	2
前受金	125	247
預り金	76	75
賞与引当金	416	411
設備関係支払手形	47	4
その他	16	17
流動負債合計	9,785	9,291
固定負債		
長期借入金	1,632	1,052
リース債務	49	49
繰延税金負債	133	550
退職給付引当金	59	84
役員退職慰労引当金	84	—
その他	204	286
固定負債合計	2,164	2,023
負債合計	11,950	11,314

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,418	6,418
資本剰余金		
資本準備金	1,535	1,535
その他資本剰余金	3,992	3,992
資本剰余金合計	5,528	5,528
利益剰余金		
利益準備金	945	945
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	784	771
特別償却準備金	7	—
別途積立金	27,206	27,206
繰越利益剰余金	1,529	1,470
利益剰余金合計	30,472	30,392
自己株式	△1,017	△1,370
株主資本合計	41,401	40,969
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△502	165
評価・換算差額等合計	△502	165
純資産合計	40,899	41,134
負債純資産合計	52,850	52,448

## ②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
売上高		
製品売上高	25,294	17,137
加工料収入	11,903	9,715
賃貸事業売上高	768	756
売上高合計	37,966	27,609
売上原価		
製品期首たな卸高	277	327
当期製品製造原価	※2 29,686	※2 22,137
賃貸事業原価	454	384
当期製品仕入高	594	468
他勘定受入高	※3 105	※3 70
合計	31,119	23,389
他勘定振替高	※3 80	※3 30
製品期末たな卸高	327	295
製品売上原価	30,711	※1 23,063
売上総利益	7,255	4,546
販売費及び一般管理費		
運搬費	1,266	911
役員報酬	286	253
給料	896	871
賞与引当金繰入額	139	140
福利厚生費	348	342
減価償却費	87	76
技術研究費	792	663
その他	973	924
販売費及び一般管理費合計	※2 4,791	※2 4,185
営業利益	2,464	361
営業外収益		
受取利息	30	17
有価証券利息	6	6
受取配当金	※7 531	※7 147
有価証券売却益	0	46
受取保険金及び配当金	60	88
その他	105	174
営業外収益合計	734	481
営業外費用		
支払利息	58	※7 54
たな卸資産廃棄損	26	—
売上債権売却損	25	11
為替差損	41	17
その他	11	7
営業外費用合計	163	90
経常利益	3,035	751

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
<b>特別利益</b>		
前期損益修正益	—	1
有形固定資産売却益	※4 0	※4 629
投資有価証券売却益	137	60
受取保険金	—	91
特別利益合計	137	782
<b>特別損失</b>		
有形固定資産売却損	—	1
有形固定資産除却損	※6 68	※6 61
投資有価証券売却損	11	—
投資有価証券評価損	835	3
減損損失	※5 1,543	※5 34
損害賠償金	320	21
貸倒引当金繰入額	—	119
子会社株式評価損	—	243
その他	0	6
特別損失合計	2,780	489
税引前当期純利益	391	1,044
法人税、住民税及び事業税	127	477
過年度法人税等	73	—
法人税等調整額	△198	211
法人税等合計	2	688
当期純利益	389	356

【製造原価明細書】

		前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	
区分	注記 番号	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
I 材料費		13,053	42.5	9,621	42.0
II 電力・ガス・水道費		1,459	4.7	1,142	5.0
III 外注費		8,078	26.3	4,649	20.3
IV 労務費		3,855	12.5	3,551	15.5
V 経費		4,287	14.0	3,938	17.2
当期総製造費用		30,735	100.0	22,902	100.0
期首仕掛品棚卸高		1,111		864	
合計		31,846		23,767	
他勘定振替高		1,295		923	
期末仕掛品棚卸高		864		705	
当期製品製造原価		29,686		22,137	

- (注) 1 当社の事業の性格上、製品事業部、I H事業部加工部においては、電力・ガス・水道費の製造費用に占める割合が大きいため一科目を設けて処理しております。
- 2 原価計算の方法として、I H事業部加工部は主として単純総合原価計算、I H事業部電機部は個別原価計算、製品事業部は組別総合原価計算を採用しております。
- 3 他勘定振替高は、主として建設仮勘定及び技術研究費へ振替えたものであります。
- 4 経費のうち主なものは次のとおりであります。

減価償却費 前事業年度 2,318百万円  
当事業年度 2,255百万円

【賃貸原価明細書】

		前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	
区分	注記 番号	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
租税公課		52	11.6	48	12.7
減価償却費		254	56.0	205	53.4
雑費		147	32.3	130	33.8
計		454	100.0	384	100.0

- (注) 1 原価計算の方法は、個別原価計算であります。
- 2 雑費のうち、主なものは「オーバルコート大崎マークウエスト」の管理費であります。

## ③【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
<b>株主資本</b>		
資本金		
前期末残高	6,418	6,418
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	6,418	6,418
資本剰余金		
資本準備金		
前期末残高	1,535	1,535
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	1,535	1,535
その他資本剰余金		
前期末残高	3,993	3,992
当期変動額		
自己株式の処分	△0	△0
当期変動額合計	△0	△0
当期末残高	3,992	3,992
利益剰余金		
利益準備金		
前期末残高	945	945
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	945	945
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金		
前期末残高	798	784
当期変動額		
固定資産圧縮積立金の積立	—	9
固定資産圧縮積立金の取崩	△14	△22
当期変動額合計	△14	△12
当期末残高	784	771
特別償却準備金		
前期末残高	14	7
当期変動額		
特別償却準備金の取崩	△7	△7
当期変動額合計	△7	△7
当期末残高	7	—
別途積立金		
前期末残高	25,206	27,206
当期変動額		
別途積立金の積立	2,000	—
当期変動額合計	2,000	—
当期末残高	27,206	27,206

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
<b>繰越利益剰余金</b>		
前期末残高	3,957	1,529
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	△838	△435
別途積立金の積立	△2,000	—
当期純利益	389	356
固定資産圧縮積立金の積立	—	△9
固定資産圧縮積立金の取崩	14	22
特別償却準備金の取崩	7	7
当期変動額合計	△2,427	△59
当期末残高	1,529	1,470
<b>自己株式</b>		
前期末残高	△717	△1,017
<b>当期変動額</b>		
自己株式の取得	△301	△352
自己株式の処分	2	0
当期変動額合計	△299	△352
当期末残高	△1,017	△1,370
<b>株主資本合計</b>		
前期末残高	42,151	41,401
<b>当期変動額</b>		
剰余金の配当	△838	△435
当期純利益	389	356
自己株式の取得	△301	△352
自己株式の処分	1	0
当期変動額合計	△749	△432
当期末残高	41,401	40,969
<b>評価・換算差額等</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
前期末残高	876	△502
<b>当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△1,378	667
当期変動額合計	△1,378	667
当期末残高	△502	165
<b>繰延ヘッジ損益</b>		
前期末残高	△0	—
<b>当期変動額</b>		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	0	—
当期変動額合計	0	—
当期末残高	—	—



(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
純資産合計		
前期末残高	43,027	40,899
当期変動額		
剰余金の配当	△838	△435
当期純利益	389	356
自己株式の取得	△301	△352
自己株式の処分	1	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△1,378	667
当期変動額合計	△2,127	234
当期末残高	40,899	41,134

**【継続企業の前提に関する事項】**

前事業年度（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）及び当事業年度（自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）

該当事項はありません。

【重要な会計方針】

<p>前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p>当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>				
<p>1 有価証券の評価基準及び評価方法</p> <p>(1) 満期保有目的の債券 償却原価法（定額法）</p> <p>(2) 子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法</p> <p>(3) その他有価証券 時価のあるもの 期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。） 時価のないもの 移動平均法による原価法</p>	<p>1 有価証券の評価基準及び評価方法</p> <p>(1) 満期保有目的の債券 同左</p> <p>(2) 子会社株式及び関連会社株式 同左</p> <p>(3) その他有価証券 時価のあるもの 同左  時価のないもの 同左</p>				
<p>2 たな卸資産の評価基準及び評価方法</p> <p>商品及び製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品 ……主として、先入先出法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）</p> <p>I H事業部電機部仕掛品 ……個別原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）</p>	<p>2 たな卸資産の評価基準及び評価方法 同左</p>				
<p>3 固定資産の減価償却の方法</p> <p>(1) 有形固定資産（リース資産を除く） 定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）については定額法を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。</p> <table border="0" data-bbox="231 1207 721 1277"> <tr> <td>建物及び構築物</td> <td>5～50年</td> </tr> <tr> <td>機械装置及び車両運搬具</td> <td>2～10年</td> </tr> </table> <p>（追加情報） 当社の機械装置については、従来、耐用年数を4～13年としておりましたが、当事業年度より4～10年としております。 これは、法人税法上の法定耐用年数の見直しを踏まえ耐用年数を変更したことによるものであります。 これにより、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益は、それぞれ107百万円減少しております。</p> <p>(2) 無形固定資産（リース資産を除く） 定額法を採用しております。</p> <p>(3) リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p>	建物及び構築物	5～50年	機械装置及び車両運搬具	2～10年	<p>3 固定資産の減価償却の方法</p> <p>(1) 有形固定資産（リース資産を除く） 同左</p> <p>(2) 無形固定資産（リース資産を除く） 同左</p> <p>(3) リース資産 同左</p>
建物及び構築物	5～50年				
機械装置及び車両運搬具	2～10年				

<p style="text-align: center;">前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>4 引当金の計上基準</p> <p>(1) 貸倒引当金 売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 従業員の賞与の支給に充てるため、期末在籍従業員に対し、協定に基づいて計算した賞与支給見込額を計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき「退職給付引当金」として計上しております。</p> <p>数理計算上の差異は、各事業年度の発生時のそれぞれ翌事業年度から定額法（10年）により費用処理しております。</p> <p>(4) 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支給に充てるため、役員退職慰労金の規程による必要額を計上しております。なお、平成16年6月に、平成16年7月以降新たな繰入を廃止するよう、規程を改訂いたしました。</p>	<p>4 引当金の計上基準</p> <p>(1) 貸倒引当金 同左</p> <p>(2) 賞与引当金 同左</p> <p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき「退職給付引当金」または「投資その他の資産（前払退職給付費用）」として計上しております。</p> <p>数理計算上の差異は、各事業年度の発生時のそれぞれ翌事業年度から定額法（10年）により費用処理しております。</p> <p>(4) 役員退職慰労引当金 (追加情報) 役員退職慰労金制度を廃止することとし、平成21年6月25日開催の定時株主総会決議において退職慰労金の打ち切り支給案が承認可決されました。</p> <p>これにより、当事業年度において「役員退職慰労引当金」を全額取崩し、打ち切り支給額の未払い分については、固定負債の「その他」に含めて表示しております。</p>
<p>5 ヘッジ会計の方法</p> <p>(1) ヘッジ会計の方法 原則として繰延ヘッジ処理によっております。なお、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては特例処理によっております。</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段           金利スワップ取引 ヘッジ対象           借入金利</p> <p>(3) ヘッジ方針 金利変動リスク等に備え相場変動を相殺又はキャッシュ・フローを固定する目的でヘッジ取引を行っております。</p> <p>(4) ヘッジ有効性評価の方法 ヘッジ対象のキャッシュ・フロー変動の累計又は相場変動とヘッジ手段のキャッシュ・フロー変動の累計又は相場変動を半期毎に比較し、両者の変動額等を基礎にして、ヘッジの有効性を評価しております。ただし、特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。</p> <p>なお、当事業年度末における残高はありません。</p>	<p style="text-align: center;">—————</p>

<p style="text-align: center;">前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>6 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項 消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によ っております。</p>	<p>6 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項 消費税等の会計処理 同左</p>

【会計処理方法の変更】

<p>前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p>当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>(棚卸資産の評価に関する会計基準) 当事業年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日公表分)を適用しております。 これにより、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益は、それぞれ39百万円減少しております。</p> <p>(リース取引に関する会計基準) 所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、当事業年度より借主側の処理、貸主側の処理とも、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))を適用し、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。 なお、リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を適用しております。 なお、この変更による損益への影響はありません。</p>	<p>_____</p> <p>_____</p> <p>(退職給付に係る会計基準) 当事業年度より、「「退職給付に係る会計基準」の一部改正(その3)」(企業会計基準第19号 平成20年7月31日)を適用しております。 数理計算上の差異を翌年から償却するため、これによる営業利益、経常利益及び税引前当期純利益に与える影響はありません。 また、本会計基準の適用に伴い発生する退職給付債務の差額の未処理残高は113百万円であります。</p>

【表示方法の変更】

<p>前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p>当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>
<p>(貸借対照表) 前事業年度において流動資産の「その他」に含めて表示しておりました「未収入金」は、当事業年度において総資産の100分の1を超えたため、区分掲記しました。 なお、前事業年度の「未収入金」は402百万円であります。</p>	<p>—————</p>
<p>(損益計算書) 前事業年度において販売費及び一般管理費の「その他」に含めて表示しておりました「役員報酬」は、当事業年度において販売費及び一般管理費合計の100分の5を超えたため区分掲記しました。 なお、前事業年度の「役員報酬」は258百万円であります。</p>	<p>—————</p>

【注記事項】

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)																								
<p>※1 いわき工場の土地取得価額について工場立地奨励金100百万円を控除しております。</p> <p>※2 いわき工場の機械及び装置取得価額について、企業立地促進事業費補助金63百万円を控除しております。</p> <p>3 保証債務</p> <p>(1) 従業員持家制度による金融機関からの借入金100百万円に対し、保証を行っております。</p> <p>(2) 他の会社の金融機関等からの借入に対し、保証を行っております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">ユーエスチタCO., LTD.</td> <td style="text-align: right;">20百万円 (US\$208千)</td> </tr> <tr> <td>P. T. コマツフォーミングイン ドネシア</td> <td style="text-align: right;">261百万円 (US\$2,658千)</td> </tr> <tr> <td>ネツレンアメリカコーポレー ション</td> <td style="text-align: right;">83百万円 (US\$852千)</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">365百万円</td> </tr> </table> <p>※4 関係会社に係る注記</p> <p>区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">短期貸付金</td> <td style="text-align: right;">918百万円</td> </tr> <tr> <td>短期借入金</td> <td style="text-align: right;">1,100百万円</td> </tr> </table> <p>5 当社は、機動的な調達手段の確保により手元流動性を圧縮し、資金効率を高めることを目的として、取引銀行3行とコミットメントライン契約を締結しております。この契約に基づく当事業年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">コミットメントの総額</td> <td style="text-align: right;">2,100百万円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">－百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">差引額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,100百万円</td> </tr> </table>	ユーエスチタCO., LTD.	20百万円 (US\$208千)	P. T. コマツフォーミングイン ドネシア	261百万円 (US\$2,658千)	ネツレンアメリカコーポレー ション	83百万円 (US\$852千)	計	365百万円	短期貸付金	918百万円	短期借入金	1,100百万円	コミットメントの総額	2,100百万円	借入実行残高	－百万円	差引額	2,100百万円	<p>※1 同左</p> <p>※2 同左</p> <p>3 保証債務</p> <p>(1) 当該項目は、重要性が無くなったため、記載を省略しております。</p> <p>(2) 他の会社の金融機関からの借入に対し、保証を行っております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">ネツレンアメリカコーポレー ション</td> <td style="text-align: right;">271百万円 (US\$2,915千)</td> </tr> </table> <p>上記以外の債務保証については、重要性が無くなったため、記載を省略しております。</p> <p>※4 関係会社に係る注記</p> <p>区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている関係会社に対する主なものは、次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">買掛金</td> <td style="text-align: right;">370百万円</td> </tr> <tr> <td>短期借入金</td> <td style="text-align: right;">700百万円</td> </tr> </table>	ネツレンアメリカコーポレー ション	271百万円 (US\$2,915千)	買掛金	370百万円	短期借入金	700百万円
ユーエスチタCO., LTD.	20百万円 (US\$208千)																								
P. T. コマツフォーミングイン ドネシア	261百万円 (US\$2,658千)																								
ネツレンアメリカコーポレー ション	83百万円 (US\$852千)																								
計	365百万円																								
短期貸付金	918百万円																								
短期借入金	1,100百万円																								
コミットメントの総額	2,100百万円																								
借入実行残高	－百万円																								
差引額	2,100百万円																								
ネツレンアメリカコーポレー ション	271百万円 (US\$2,915千)																								
買掛金	370百万円																								
短期借入金	700百万円																								

(損益計算書関係)

前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)				
—————	<p>※1 当事業年度末のたな卸高は、収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。</p> <p style="text-align: right;">2百万円</p> <p>※2 研究開発費の総額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費</td> <td style="text-align: right;">792百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">663百万円</td> </tr> </table> <p>※3 他勘定受入高は、主としてたな卸資産より振替えたものであります。</p> <p>他勘定振替高は、主としてたな卸資産による振替分であります。</p>	一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費	792百万円	一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費	663百万円
一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費	792百万円				
一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費	663百万円				



<p style="text-align: center;">前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)</p>	<p style="text-align: center;">当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>																
<p>※4 有形固定資産売却益は車両運搬具の売却によるものであります。</p>	<p>※4 有形固定資産売却益は当社が「オーバルコート大崎マークウエスト」に所有する賃貸用オフィス4.5フロアのうち、2フロアを売却したことによるものであります。 (追加情報) 平成22年7月1日に、上記のうち、さらに1フロアを売却する計画であります。これにより、有形固定資産売却益が328百万円発生する見込みであります。</p>																
<p>※5 当社は、当事業年度において、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。</p>	<p>※5 当社は、当事業年度において、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。</p>																
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">用途</th> <th style="width: 30%;">種類</th> <th style="width: 40%;">場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>熱処理受託加工設備</td> <td>建物・機械及び装置・土地等</td> <td>岡山工場 (岡山県総社市)</td> </tr> <tr> <td>自動車部品等製造設備</td> <td>同上</td> <td>可児工場 (岐阜県可児市)</td> </tr> </tbody> </table>	用途	種類	場所	熱処理受託加工設備	建物・機械及び装置・土地等	岡山工場 (岡山県総社市)	自動車部品等製造設備	同上	可児工場 (岐阜県可児市)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">用途</th> <th style="width: 30%;">種類</th> <th style="width: 40%;">場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>遊休(売却予定)資産</td> <td>土地</td> <td>大阪府大阪市西淀川区</td> </tr> </tbody> </table>	用途	種類	場所	遊休(売却予定)資産	土地	大阪府大阪市西淀川区	
用途	種類	場所															
熱処理受託加工設備	建物・機械及び装置・土地等	岡山工場 (岡山県総社市)															
自動車部品等製造設備	同上	可児工場 (岐阜県可児市)															
用途	種類	場所															
遊休(売却予定)資産	土地	大阪府大阪市西淀川区															
<p>当社は、資産を管理会計上の区分を基準に、工場資産は主として工場単位(事業の相互補完性が認められる場合においては複数工場をひとつのグルーピングとする)、賃貸用資産は主として物件単位にグルーピングを行っております。</p> <p>これらの資産グループのうち、岡山工場及び可児工場においては、急激な受注量の減少により営業損失となり、かつ翌年度も大きな回復が見込まれないことから、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。</p> <p>減損損失の内容は、建物297百万円、機械及び装置752百万円、土地402百万円、その他90百万円です。</p> <p>また、両工場の計上額の内訳は、岡山工場857百万円、可児工場686百万円です。</p> <p>なお、当社の回収可能価額は、主に使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを2.5%で割引いて算定しております。</p>	<p>当社は、資産を管理会計上の区分を基準に、工場資産は主として工場単位(事業の相互補完性が認められる場合においては複数工場をひとつのグルーピングとする)、賃貸用資産は主として物件単位にグルーピングを行っております。</p> <p>これらの資産グループのうち、旧大阪工場跡地については、生産拠点を尼崎工場に移転集約したため、当事業年度末現在、遊休資産となっております。当該資産については売却を予定しておりますが、回収可能価額が帳簿価額を下回ったため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し当該減少額34百万円を減損損失として計上しました。その内訳はすべて土地であります。</p> <p>なお、回収可能価額は、正味売却価額により測定しており、これには売却予定価額を用いております。</p>																
<p>※6 有形固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">建物</td> <td style="text-align: right;">1百万円</td> </tr> <tr> <td>機械及び装置</td> <td style="text-align: right;">66百万円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">1百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">68百万円</td> </tr> </table>	建物	1百万円	機械及び装置	66百万円	その他	1百万円	計	68百万円	<p>※6 有形固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">建物</td> <td style="text-align: right;">0百万円</td> </tr> <tr> <td>機械及び装置</td> <td style="text-align: right;">59百万円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">1百万円</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">61百万円</td> </tr> </table>	建物	0百万円	機械及び装置	59百万円	その他	1百万円	計	61百万円
建物	1百万円																
機械及び装置	66百万円																
その他	1百万円																
計	68百万円																
建物	0百万円																
機械及び装置	59百万円																
その他	1百万円																
計	61百万円																
<p>※7 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">受取配当金</td> <td style="text-align: right;">281百万円</td> </tr> </table>	受取配当金	281百万円	<p>※7 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">受取配当金</td> <td style="text-align: right;">60百万円</td> </tr> <tr> <td>支払利息</td> <td style="text-align: right;">12百万円</td> </tr> </table>	受取配当金	60百万円	支払利息	12百万円										
受取配当金	281百万円																
受取配当金	60百万円																
支払利息	12百万円																

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末 株式数(千株)	当事業年度増加 株式数(千株)	当事業年度減少 株式数(千株)	当事業年度末 株式数(千株)
普通株式 (注) 1、2	578	538	2	1,115
合計	578	538	2	1,115

(注) 1 自己株式の増加538千株は、取締役会決議に基づく自己株式の取得による増加535千株、単元未満株式の買取りによる増加2千株であります。

2 自己株式の減少2千株は、単元未満株式の買増請求による売渡しであります。

当事業年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末 株式数(千株)	当事業年度増加 株式数(千株)	当事業年度減少 株式数(千株)	当事業年度末 株式数(千株)
普通株式 (注) 1、2	1,115	558	0	1,673
合計	1,115	558	0	1,673

(注) 1 自己株式の増加558千株は、取締役会決議に基づく自己株式の取得による増加557千株、単元未満株式の買取りによる増加1千株であります。

2 自己株式の減少0千株は、単元未満株式の買増請求による売渡しであります。

## (リース取引関係)

前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)					当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)																																				
所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。					同左																																				
1 リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額					1 リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額																																				
	取得価額 相当額 (百万円)	減価償却 累計額相 当額 (百万円)	減損損失 累計額相 当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)		取得価額 相当額 (百万円)	減価償却 累計額相 当額 (百万円)	減損損失 累計額相 当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)																																
機械及び装置	149	72	—	76	機械及び装置	149	93	—	55																																
車両運搬具	28	22	—	6	車両運搬具	15	12	—	2																																
工具、器具及び備品	93	50	0	42	工具、器具及び備品	83	56	0	25																																
無形固定資産	102	41	—	60	無形固定資産	102	62	—	39																																
合計	374	187	0	185	合計	350	224	0	124																																
<p>なお、取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。</p> <p>2 未経過リース料期末残高相当額等</p> <table border="1"> <tr> <td>1年以内</td> <td>61百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td>125百万円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>186百万円</td> </tr> <tr> <td>リース資産減損勘定残高</td> <td>0百万円</td> </tr> </table> <p>なお、未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。</p> <p>3 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失</p> <table border="1"> <tr> <td>支払リース料</td> <td>66百万円</td> </tr> <tr> <td>リース資産減損勘定の取崩額</td> <td>0百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td>66百万円</td> </tr> <tr> <td>減損損失</td> <td>0百万円</td> </tr> </table> <p>4 減価償却費相当額の算定方法</p> <p>リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。</p>					1年以内	61百万円	1年超	125百万円	合計	186百万円	リース資産減損勘定残高	0百万円	支払リース料	66百万円	リース資産減損勘定の取崩額	0百万円	減価償却費相当額	66百万円	減損損失	0百万円	<p>同左</p> <p>2 未経過リース料期末残高相当額等</p> <table border="1"> <tr> <td>1年以内</td> <td>55百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td>69百万円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>125百万円</td> </tr> <tr> <td>リース資産減損勘定残高</td> <td>0百万円</td> </tr> </table> <p>同左</p> <p>3 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失</p> <table border="1"> <tr> <td>支払リース料</td> <td>61百万円</td> </tr> <tr> <td>リース資産減損勘定の取崩額</td> <td>0百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td>61百万円</td> </tr> <tr> <td>減損損失</td> <td>—百万円</td> </tr> </table> <p>4 減価償却費相当額の算定方法</p> <p>同左</p>					1年以内	55百万円	1年超	69百万円	合計	125百万円	リース資産減損勘定残高	0百万円	支払リース料	61百万円	リース資産減損勘定の取崩額	0百万円	減価償却費相当額	61百万円	減損損失	—百万円
1年以内	61百万円																																								
1年超	125百万円																																								
合計	186百万円																																								
リース資産減損勘定残高	0百万円																																								
支払リース料	66百万円																																								
リース資産減損勘定の取崩額	0百万円																																								
減価償却費相当額	66百万円																																								
減損損失	0百万円																																								
1年以内	55百万円																																								
1年超	69百万円																																								
合計	125百万円																																								
リース資産減損勘定残高	0百万円																																								
支払リース料	61百万円																																								
リース資産減損勘定の取崩額	0百万円																																								
減価償却費相当額	61百万円																																								
減損損失	—百万円																																								

## (有価証券関係)

前事業年度 (平成21年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

当事業年度 (平成22年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式 (貸借対照表計上額 子会社株式3,149百万円、関連会社株式139百万円) は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

## (税効果会計関係)

前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)																																																																																		
<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>たな卸資産</td><td style="text-align: right;">32百万円</td></tr> <tr><td>有形固定資産</td><td style="text-align: right;">47百万円</td></tr> <tr><td>無形固定資産</td><td style="text-align: right;">52百万円</td></tr> <tr><td>投資有価証券</td><td style="text-align: right;">89百万円</td></tr> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">120百万円</td></tr> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">182百万円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">226百万円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">33百万円</td></tr> <tr><td>P C B 処理関連損失</td><td style="text-align: right;">80百万円</td></tr> <tr><td>減損損失</td><td style="text-align: right;">584百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">69百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,519百万円</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">△368百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,151百万円</td></tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>特定資産買い換え</td><td style="text-align: right;">△516百万円</td></tr> <tr><td>特別償却準備金</td><td style="text-align: right;">△4百万円</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">△214百万円</td></tr> <tr><td>退職給付信託設定益</td><td style="text-align: right;">△90百万円</td></tr> <tr><td>未収還付事業税</td><td style="text-align: right;">△49百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">△875百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産の純額</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">275百万円</td></tr> </table>	たな卸資産	32百万円	有形固定資産	47百万円	無形固定資産	52百万円	投資有価証券	89百万円	貸倒引当金	120百万円	賞与引当金	182百万円	退職給付引当金	226百万円	役員退職慰労引当金	33百万円	P C B 処理関連損失	80百万円	減損損失	584百万円	その他	69百万円	繰延税金資産小計	1,519百万円	評価性引当額	△368百万円	繰延税金資産合計	1,151百万円	特定資産買い換え	△516百万円	特別償却準備金	△4百万円	その他有価証券評価差額金	△214百万円	退職給付信託設定益	△90百万円	未収還付事業税	△49百万円	繰延税金負債合計	△875百万円	繰延税金資産の純額	275百万円	<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>たな卸資産</td><td style="text-align: right;">34百万円</td></tr> <tr><td>有形固定資産</td><td style="text-align: right;">51百万円</td></tr> <tr><td>無形固定資産</td><td style="text-align: right;">24百万円</td></tr> <tr><td>投資有価証券</td><td style="text-align: right;">186百万円</td></tr> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">102百万円</td></tr> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">39百万円</td></tr> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">179百万円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">255百万円</td></tr> <tr><td>役員退職金未払金</td><td style="text-align: right;">32百万円</td></tr> <tr><td>P C B 処理関連損失</td><td style="text-align: right;">80百万円</td></tr> <tr><td>減損損失</td><td style="text-align: right;">549百万円</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">29百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,565百万円</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">△687百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">877百万円</td></tr> </table> <p>繰延税金負債</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>特定資産買い換え</td><td style="text-align: right;">△507百万円</td></tr> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">△453百万円</td></tr> <tr><td>退職給付信託設定益</td><td style="text-align: right;">△90百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">△1,052百万円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産(負債)の純額</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black; border-bottom: 3px double black;">△174百万円</td></tr> </table>	たな卸資産	34百万円	有形固定資産	51百万円	無形固定資産	24百万円	投資有価証券	186百万円	貸倒引当金	102百万円	未払事業税	39百万円	賞与引当金	179百万円	退職給付引当金	255百万円	役員退職金未払金	32百万円	P C B 処理関連損失	80百万円	減損損失	549百万円	その他	29百万円	繰延税金資産小計	1,565百万円	評価性引当額	△687百万円	繰延税金資産合計	877百万円	特定資産買い換え	△507百万円	その他有価証券評価差額金	△453百万円	退職給付信託設定益	△90百万円	繰延税金負債合計	△1,052百万円	繰延税金資産(負債)の純額	△174百万円
たな卸資産	32百万円																																																																																		
有形固定資産	47百万円																																																																																		
無形固定資産	52百万円																																																																																		
投資有価証券	89百万円																																																																																		
貸倒引当金	120百万円																																																																																		
賞与引当金	182百万円																																																																																		
退職給付引当金	226百万円																																																																																		
役員退職慰労引当金	33百万円																																																																																		
P C B 処理関連損失	80百万円																																																																																		
減損損失	584百万円																																																																																		
その他	69百万円																																																																																		
繰延税金資産小計	1,519百万円																																																																																		
評価性引当額	△368百万円																																																																																		
繰延税金資産合計	1,151百万円																																																																																		
特定資産買い換え	△516百万円																																																																																		
特別償却準備金	△4百万円																																																																																		
その他有価証券評価差額金	△214百万円																																																																																		
退職給付信託設定益	△90百万円																																																																																		
未収還付事業税	△49百万円																																																																																		
繰延税金負債合計	△875百万円																																																																																		
繰延税金資産の純額	275百万円																																																																																		
たな卸資産	34百万円																																																																																		
有形固定資産	51百万円																																																																																		
無形固定資産	24百万円																																																																																		
投資有価証券	186百万円																																																																																		
貸倒引当金	102百万円																																																																																		
未払事業税	39百万円																																																																																		
賞与引当金	179百万円																																																																																		
退職給付引当金	255百万円																																																																																		
役員退職金未払金	32百万円																																																																																		
P C B 処理関連損失	80百万円																																																																																		
減損損失	549百万円																																																																																		
その他	29百万円																																																																																		
繰延税金資産小計	1,565百万円																																																																																		
評価性引当額	△687百万円																																																																																		
繰延税金資産合計	877百万円																																																																																		
特定資産買い換え	△507百万円																																																																																		
その他有価証券評価差額金	△453百万円																																																																																		
退職給付信託設定益	△90百万円																																																																																		
繰延税金負債合計	△1,052百万円																																																																																		
繰延税金資産(負債)の純額	△174百万円																																																																																		
<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの当該差異の原因となった主要な項目別内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>国内の法定実効税率(調整)</td><td style="text-align: right;">39.7%</td></tr> <tr><td>交際費等損金不算入項目</td><td style="text-align: right;">6.1%</td></tr> <tr><td>受取配当金等益金不算入項目</td><td style="text-align: right;">△34.2%</td></tr> <tr><td>税額控除</td><td style="text-align: right;">△3.7%</td></tr> <tr><td>評価性引当額の増減額</td><td style="text-align: right;">△25.7%</td></tr> <tr><td>住民税均等割</td><td style="text-align: right;">9.2%</td></tr> <tr><td>過年度法人税等</td><td style="text-align: right;">9.2%</td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">0.6%</td></tr> </table>	国内の法定実効税率(調整)	39.7%	交際費等損金不算入項目	6.1%	受取配当金等益金不算入項目	△34.2%	税額控除	△3.7%	評価性引当額の増減額	△25.7%	住民税均等割	9.2%	過年度法人税等	9.2%	税効果会計適用後の法人税等の負担率	0.6%	<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの当該差異の原因となった主要な項目別内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>国内の法定実効税率(調整)</td><td style="text-align: right;">39.7%</td></tr> <tr><td>交際費等損金不算入項目</td><td style="text-align: right;">1.4%</td></tr> <tr><td>受取配当金等益金不算入項目</td><td style="text-align: right;">△3.9%</td></tr> <tr><td>税額控除</td><td style="text-align: right;">△4.1%</td></tr> <tr><td>評価性引当額の増減額</td><td style="text-align: right;">30.5%</td></tr> <tr><td>住民税均等割</td><td style="text-align: right;">3.3%</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">△1.0%</td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">65.9%</td></tr> </table>	国内の法定実効税率(調整)	39.7%	交際費等損金不算入項目	1.4%	受取配当金等益金不算入項目	△3.9%	税額控除	△4.1%	評価性引当額の増減額	30.5%	住民税均等割	3.3%	その他	△1.0%	税効果会計適用後の法人税等の負担率	65.9%																																																		
国内の法定実効税率(調整)	39.7%																																																																																		
交際費等損金不算入項目	6.1%																																																																																		
受取配当金等益金不算入項目	△34.2%																																																																																		
税額控除	△3.7%																																																																																		
評価性引当額の増減額	△25.7%																																																																																		
住民税均等割	9.2%																																																																																		
過年度法人税等	9.2%																																																																																		
税効果会計適用後の法人税等の負担率	0.6%																																																																																		
国内の法定実効税率(調整)	39.7%																																																																																		
交際費等損金不算入項目	1.4%																																																																																		
受取配当金等益金不算入項目	△3.9%																																																																																		
税額控除	△4.1%																																																																																		
評価性引当額の増減額	30.5%																																																																																		
住民税均等割	3.3%																																																																																		
その他	△1.0%																																																																																		
税効果会計適用後の法人税等の負担率	65.9%																																																																																		

## (1株当たり情報)

前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)		当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	
1株当たり純資産額	938.10円	1株当たり純資産額	955.71円
1株当たり当期純利益金額	8.87円	1株当たり当期純利益金額	8.19円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。	

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(百万円)	389	356
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(百万円)	389	356
普通株式の期中平均株式数(株)	43,887,715	43,469,882

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## ④【附属明細表】

## 【有価証券明細表】

## 【株式】

		銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価 証券	その他有 価証券	新日本製鐵(株)	2,882,000	1,057
		N T N(株)	1,381,000	582
		(株)小松製作所	279,842	548
		小松 (中国) 履帯有限公司	—	500
		電気興業(株)	722,000	350
		知多鋼業(株)	823,800	328
		(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	484,390	239
		高砂熱学工業(株)	273,000	202
		新東工業(株)	257,800	200
		P. T. コマツフォーゼンディングインドネシア	2,031	188
		マークテック(株)	200,000	185
		旭コンクリート工業(株)	358,680	170
		東プレ(株)	227,000	168
		T H K(株)	57,324	116
		デンヨー(株)	145,000	104
		大成建設(株)	458,000	94
		日本精工(株)	99,692	73
		日本パーカライジング(株)	53,000	67
		その他 (42銘柄)	3,128,603	524
			小計	11,833,162
		計	11,833,162	5,705

## 【債券】

銘柄		券面総額（百万円）	貸借対照表計上額 （百万円）
有価証券	満期保有 目的の債 券	第54回近畿日本鉄道社債	100
		小計	100
投資有価 証券	満期保有 目的の債 券	第19回三菱東京UFJ銀行社債（劣後 特約付）	100
		第21回三菱東京UFJ銀行社債（劣後 特約付）	100
		第5回三菱UFJ信託銀行社債（劣後 特約付）	100
		小計	300
	その他有 価証券	BTMキュラソー #740ユーロ円債・期 限付劣後債	100
		小計	100
計		500	500

## 【その他】

種類及び銘柄		投資口数等（百万口）	貸借対照表計上額 （百万円）
有価証券	その他有 価証券	住友信託銀行(株) 譲渡性預金	—
		小計	—
投資有価 証券	その他有 価証券	(投資信託受益証券) 証券投資信託受益証券（1銘柄）	51
		小計	51
計		51	548

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	12,128	759	811	12,076	6,349	380	5,726
構築物	1,556	269	10	1,815	1,184	117	630
機械及び装置	31,389	1,802	676	32,515	25,493	2,029	7,022
車両運搬具	157	6	7	157	141	9	15
工具、器具及び備品	1,879	93	35	1,937	1,766	124	171
土地	9,732	188	523 (34)	9,396	—	—	9,396
リース資産	17	16	—	34	9	6	25
建設仮勘定	1,538	2,963	4,183	318	—	—	318
有形固定資産計	58,400	6,100	6,248 (34)	58,251	34,944	2,668	23,307
無形固定資産							
特許権	—	—	—	19	3	2	15
電力施設利用権	—	—	—	3	3	—	—
水道施設利用権	—	—	—	4	2	0	2
電話加入権	—	—	—	0	—	—	0
無形固定資産計	—	—	—	27	9	2	17
長期前払費用	10	9	10	9	—	—	9
繰延資産							
—	—	—	—	—	—	—	—
繰延資産計	—	—	—	—	—	—	—

(注) 1 「当期増加額」の主なものは次のとおりであります。

建物	神戸工場	工場建物	727百万円
機械及び装置	神戸工場	熱処理加工設備	407百万円
	加賀分工場	熱処理加工設備	399百万円
	宝達志水分工場	熱処理加工設備	241百万円
	赤穂工場	高強度ばね鋼線製造設備	232百万円
建設仮勘定	尼崎工場 (分工場含む)	熱処理加工設備	729百万円
	神戸工場	工場建物	542百万円

2 「当期減少額」の主なものは次のとおりであります。

建物	本社	賃貸フロア一部売却	811百万円
土地	本社	賃貸フロア一部売却	489百万円
	大阪工場	減損損失	34百万円
機械及び装置	大阪工場	工場移転に伴う除却	380百万円



- 3 建設仮勘定の「当期減少額」のうち主なものは、建物、機械及び装置等の完成による各資産科目への振替によるものであります。
- 4 無形固定資産については資産総額の1%以下のため、「前期末残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。
- 5 減損損失計上額を「当期減少額」に（ ）内数で記載しております。

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	355	287	—	170	472
賞与引当金	416	411	416	—	411
役員退職慰労引当金	84	—	2	82	—

(注) 1 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」の主なものは、貸倒懸念債権の洗替額であります。

- 2 役員退職慰労引当金の「当期減少額(その他)」は、役員退職慰労金制度廃止に伴う取崩額で、打ち切り支給額の未払い分については固定負債の「その他」に含めて表示しております。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

当事業年度末（平成22年3月31日現在）における主な資産及び負債の内容は次のとおりであります。

① 現金及び預金

区分	金額（百万円）
現金	6
預金の種類	
当座預金	4,870
普通預金	620
別段預金	0
定期預金	50
小計	5,541
合計	5,548

② 受取手形

(a) 相手先別内訳

相手先	金額（百万円）
旭コンクリート工業㈱	201
東京三谷セキサン㈱	169
知多鋼業㈱	83
高雄工業㈱	69
ヤマト特殊鋼㈱	67
その他	551
合計	1,142

(b) 期日別内訳

期日	金額（百万円）
平成22年4月	459
平成22年5月	252
平成22年6月	208
平成22年7月	159
平成22年8月	61
合計	1,142

③ 売掛金

(a) 相手先別内訳

相手先	金額 (百万円)
THK(株)	851
(株)小松製作所	788
ダイニチ(株)	617
(株)ジェイテクト	403
中央発條(株)	360
その他	4,628
合計	7,650

(b) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

前期繰越高 (百万円)	当期発生高 (百万円)	当期回収高 (百万円)	次期繰越高 (百万円)	回収率 (%)	滞留期間 (日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	$\frac{(A)+(D)}{2} \div \frac{(B)}{365}$
7,926	28,155	28,431	7,650	78.8	101.0

(注) 消費税等の会計処理は、税抜方式を採用しておりますが、上記金額には消費税等が含まれております。

④ たな卸資産

(a) 商品及び製品

品名	金額 (百万円)
製品	
PC鋼棒	220
その他	75
合計	295

(b) 仕掛品

品名	金額 (百万円)
誘導加熱装置・機械	135
PC鋼棒	120
その他	448
合計	705

## (c) 原材料及び貯蔵品

品名	金額（百万円）
原材料	
誘導加熱装置・機械用部品	166
P C鋼棒	164
その他	83
小計	415
貯蔵品	
補助材料	70
主要機械部品	16
消耗工具	153
小計	239
合計	654

## ⑤ 関係会社株式

相手先	金額（百万円）
ネツレン・ユー・エス・エーInc.	1,595
上海中煉線材有限公司	653
㈱旭電波工業所	313
広州豊東熱煉有限公司	224
九州高周波熱錬㈱	83
その他	418
合計	3,289

⑥ 支払手形

(a) 相手先別内訳

相手先	金額（百万円）
(株)浅野鉄工所	102
(株)ツバキ・ナカシマ	15
(株)立花エレテック	7
新東工業(株)	7
(株)I H I ビジネスサポート	7
その他	61
合計	200

(b) 期日別内訳

期日	金額（百万円）
平成22年4月	27
平成22年5月	17
平成22年6月	32
平成22年7月	123
合計	200

⑦ 買掛金

相手先	金額（百万円）
(株)メタルワン	1,755
J F E 商事鉄鋼建材(株)	585
(株)ネツレン・ヒートトリート	332
伊藤忠丸紅テクノスチール(株)	278
住友商事(株)	255
その他	724
合計	3,932

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・ 売渡し  取扱場所  株主名簿管理人  取次所  買取・売渡手数料	(特別口座) 東京都中央区八重洲二丁目3番1号 住友信託銀行株式会社 証券代行部 (特別口座) 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社  _____  無料
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL <a href="http://www.k-neturen.co.jp/ir/kohkoku/kohkoku.html">http://www.k-neturen.co.jp/ir/kohkoku/kohkoku.html</a>
株主に対する特典	なし

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利並びに単元未満株式の売渡請求をする権利以外の権利を有していません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第98期）（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）平成21年6月25日関東財務局長に提出

#### (2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成21年6月25日関東財務局長に提出

#### (3) 四半期報告書及び確認書

（第99期第1四半期）（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）平成21年8月13日関東財務局長に提出

（第99期第2四半期）（自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日）平成21年11月13日関東財務局長に提出

（第99期第3四半期）（自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日）平成22年2月12日関東財務局長に提出

#### (4) 自己株券買付状況報告書

報告期間（自 平成22年1月1日 至 平成22年1月31日）平成22年2月9日関東財務局長に提出

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



# 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成21年6月25日

高周波熱錬株式会社

取締役会 御中

井上監査法人

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 萱嶋 秀雄 ㊞

業務執行社員 公認会計士 林 映男 ㊞

## <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている高周波熱錬株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、高周波熱錬株式会社及び連結子会社の平成21年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## <内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、高周波熱錬株式会社の平成21年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、高周波熱錬株式会社が平成21年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

※1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成22年 6 月25日

高周波熱錬株式会社

取締役会 御中

井上監査法人

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 萱嶋 秀雄 ㊞

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 佐藤 賢治 ㊞

## <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている高周波熱錬株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、高周波熱錬株式会社及び連結子会社の平成22年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## <内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、高周波熱錬株式会社の平成22年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、高周波熱錬株式会社が平成22年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

※1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書

平成21年6月25日

高周波熱錬株式会社

取締役会 御中

井上監査法人

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 萱嶋 秀雄 ㊞

業務執行社員 公認会計士 林 映男 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている高周波熱錬株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの第98期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、高周波熱錬株式会社の平成21年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

※1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書

平成22年6月25日

高周波熱錬株式会社

取締役会 御中

井上監査法人

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 萱嶋 秀雄 ㊞

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 佐藤 賢治 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている高周波熱錬株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第99期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、高周波熱錬株式会社の平成22年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

※1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

## 【表紙】

【提出書類】	内部統制報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の4第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成22年6月25日
【会社名】	高周波熱錬株式会社
【英訳名】	Neturen Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 福原 哲一
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	東京都品川区東五反田二丁目17番1号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表取締役社長福原哲一は、当社の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しております。

その責任の遂行にあたり、当社は、企業会計審議会が公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであります。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することが出来ない可能性があります。

## 2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である平成22年3月31日を基準日として、わが国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価を行いました。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しております。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行いました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、会社並びに連結子会社及び持分法適用会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定いたしました。

財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、会社並びに連結子会社12社及び持分法適用会社3社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定いたしました。なお持分法適用会社3社については、金額的及び質的重要性の観点から僅少であると判断し、全社的な内部統制の評価範囲に含めておりません。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、各事業所の前連結会計年度の売上高（連結会社間取引消去後）の金額が高い拠点から合算していき、前連結会計年度の連結売上高の概ね2/3に達している7事業拠点を「重要な事業拠点」といたしました。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的の大きく関わる勘定科目として売上高、売掛金及び棚卸資産に至る業務プロセスを評価の対象といたしました。

さらに、財務報告への影響を勘案して、重要な虚偽記載の発生の可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引を行っている事業又は業務に係る業務プロセスを重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加しております。

## 3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当事業年度末日時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断いたしました。

## 4 【付記事項】

付記すべき事項はありません。

## 5 【特記事項】

特記すべき事項はありません。

## 【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成22年6月25日
【会社名】	高周波熱錬株式会社
【英訳名】	Neturen Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 福原 哲一
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	東京都品川区東五反田二丁目17番1号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長福原哲一は、当社の第99期（自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）の有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。